

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈厚生事業会

1. <経営理念>

- ①時代の変遷にとまれない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
- ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
- ③All for One, One for All [全てが一人の為に、一人が全ての為に]

2. <基本方針>

- ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする
- ・各施設の基本方針を尊重する
- ・社会的に評価を得られるよう努める

3. <令和2年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②教育システムの充実とサービスの質の向上
- ③地域社会に必要とされる法人

4. <令和2年度目標>

①事業所内保育事業の実施

4月より開園し、3月1日時点で1歳児4名、2歳児2名の保育を行っている

②内部管理体制の整備

法人の事業継承計画書を策定し、理事会の承認を得ることが出来た。

③広報の強化

学生向けレジェンドや地域住民向けレジェンドを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で実施出来なかった。パンフレットの完成はしたが、活用が出来ていない。次年度からは、採用担当者を任命し活用していく。

5. <会議>

法人運営会議	R2/7/20、8/17、9/15、10/29、11/24、12/16、 R31/19、2/16、3/19
予算・経営会議	R2/10/29、R3/1/16

6. <行事等>

日付	行事等
5月21日	監事監査
5月30日	理事会 (事業報告・決算他)
6月16日	定時評議員会 (決算、社会福祉充実残高)

6月17日	資産登記・役員登記
7月22日	緊急理事会（小規模保育園応募他）
10月21日	緊急理事会（小規模保育園入札他）
11月30日	小規模保育園入札・理事会（一次補正予算他）
12月28日	緊急理事会（給水設備工事公告他）
1月28日	給水設備工事入札
1月29日	理事会（二次補正・次年度予算他）
3月11日	緊急理事会（非常用自家発電工事入札業者審査他）
3月24日	緊急理事会（非常用自家発電工事入札予定価格決定）
3月25日	非常用自家発電工事入札
3月29日	緊急理事会（非常用自家発電工事契約他）

7. 《総括》

今年度は、地域との交流や行事、採用活動等今まで当たり前のように行ってきた事が出来ない一年となった。新型コロナウイルス感染症が拡大、終息することなく、その対応に追われることが多かった。

日々の感染対策や新型コロナウイルス陽性者が出た時の対応の検討、コロナ禍での介護サービスや保育サービスをどの様に充実させていくのか等、課題は山積であった。

そんな中でも、部門間、施設間、部署間、法人全体が話し合いを続け、大変協力出来たことが今年度の一番の収穫だったと感じている。

次年度も続くであろうこの状況をチャンスと考え、法人一丸となって、より社会に貢献出来る法人に成長したい。

☆高齢者部門

1. 《目標》

合言葉をワンチームとし、全員が主体的になれる部門を目指す

- ・働き方や給与等の見直しと変更
- ・誰もが自分の意見を言える場作り
- ・戦略的な広報活動と人財確保
- ・技能実習生の受け入れ

《行動計画》

①給与・人財システムの改善

②学生向けレジェンド発表会や昨年度作成したパンフレットを活用し、人財確保に努める

③部署内でのコミュニケーションを増やし、深める機会を作る

④新たに技能実習生8名を受け入れ予定とし、令和2年度中に合計16名となる見込み。今後も育成の方法等細かい点まで各部署担当者が会議で話し合い、技能実習生が安心して、しっかりと育っていけるようにサポートする。

2. <総括>

今年度は、変化が求められる一年となった。新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限を受けながらの運営となった。

早急にリモート面会が出来るようにしたり、ゲストのご様子を写真とともにお伝えしたり、面会が出来ないご家族が安心できる様に努めた。

職員については、大慈弥勒園での主任の体制や給与等についての変更や採用や広報を専任で行う職員の配置を次年度から実施できるように事前準備を行った。

技能実習生については、インドネシアからの2名の受け入れが遅延しているものの大慈弥勒園がベトナムより2名、ケアハウス大慈がインドネシアより2名、大慈智音園がインドネシアより2名の計6名の受け入れを行った。

また、大慈弥勒園で受け入れていたスリランカからの1名が帰国した。

これで法人内の技能実習生合計13名となった。

コロナ禍だからこそ、今まで積み上げてきた施設間、部署間、また部署内での信頼関係を感じる一年でもあった。

3. <人財確保と育成等>

①人財確保 新卒10名採用

人財の採用については、新卒は5名に留まった。

②人財育成計画

ネット配信による研修システムを導入する事で入職時研修や虐待研修等をリモートで実施出来た。iPadの購入やWi-Fiの準備を行い、内外の研修や会議にリモート参加できる環境を作った。

③福利厚生等

今年度は、予定していた事が全く実施出来なかった。

コロナ禍でもできる事として5月には、その頃なかなか手に入らなかった消毒液を職員全員にプレゼントした。また、新型コロナウイルス感染者の介護をした職員のために1日7000円の危険手当を早急に創設した。

4. <地域貢献事業>

地藏盆、地域住民向けレジェンド、お祭りの参加等全て実施出来なかった。1度だけ開催された給食会の送迎を行った。

5. <広報活動>

今年度は、求人広告に掲載することとSMSキャリアの支援での採用広報を行った。

●随時対応・・・ホームページ更新作業

6. <研修会等>

月	研修名	対象者
4月～9月	介護職員初任者研修	新人職員
2月9日	ステップアップ研修	昇級者
3月(ネット配信)	コンプライアンス研修	管理者・主任

毎月1回	コーチング研修	役職者（弥勒園）
R2/5/29、6/18、7/16、8/28、9/24、10/22、11/20、12/17、 R3/1/21、2/26、3/12		
毎月2回	遠藤メソッド研修	役職者等
R2/6/17、7/27、8/12、9/23、10/13、11/17、12/22、 R3/1/27、2/24、3/24（大慈園）		
R2/6/10、7/7、10/6、11/4、12/11、R3/1/12、2/8、3/9（智音園）		

7. 《施設整備等》・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
緊急防水工事	大慈園
空調設備作業	大慈園
事務所内装工事	大慈園
非常用自家発電設備工事契約	大慈弥勒園・大慈吉祥園・大慈智音園
空調機修理	ケアハウス大慈
車両購入（ダイハツタント）	ケアハウス大慈
寝台用入浴機器	ケアハウス大慈
パソコンのサーバー購入	ケアハウス大慈

※大慈SS→大慈ショートステイ

※大慈園→大慈弥勒園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、大慈吉祥園

8. 《会議・委員会》

会議名等	
事業戦略推進会議	予算管理委員会
人事委員会	モチベーションアップ委員会
広報委員会	こども参観会議
研修委員会	社会貢献委員会

☆ 保育・児童部門

1. 《目標》

施設間の情報共有の強化

→チーム会議をオンラインで開催し、情報の共有を図った。

2. 《行動報告》

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①園長・管理者会議をオンラインや対面で行った。
各園（館）の状況・取り組みや課題を共有し、運営や保育を進めた。</p> <p>②保育教諭会議をオンラインで行った。情報交換、意見交換を行い、問題解決に向け検討を重ねた。</p> <p>③キッチン会議をオンラインで行った。献立の意見交換、情報交換、食育に関する相談等を行い、実際園での取り組みや献立に反映させた。</p> <p>④リスクマネジメント会議をオンラインで行った。環境要因・人的要因等、課題を抽出し解決・改善に向けて取り組んだ。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

3. <人財確保と育成等>

① 人財確保

新型コロナウイルス感染防止のため、就職フェアは中止になった。
神戸市保育士等宿舎借り上げ支援事業を取り入れた。

② 人財育成計画

今年度は、概ね各園・館内での教育になった。
個々の保育技術、教育的知識を高められるようにオンラインでの研修も行った。

4. <地域貢献事業>

子育てサロンや園庭開放、ワークキャンプやトライやるウィークは、全て中止した。
児童館においては、6月より一般来館者を含め、親子館事業は、その都度育児相談をするなど子育てのしやすい地域を目指し、地域貢献に取り組んだ。

5. <研修会等>

月	研修名	対象者
4月	新任職員研修（オンライン）	新卒職員
11月	教育・保育部門合同研修 中止	全職員

6. <施設整備等>・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
エアコン清掃	大慈幼保幼保連携型認定こども園
ゴムチップ施工（園庭のコンクリート部分）	大慈ひょうご幼保連携型認定こども園
物品収納棚・ブラインド	たちばな児童館

令和2年度 事業報告書 (案)

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

2. <令和2年度重点目標>

『組織力の向上』・・・新規採用者10名以上の応募がある

- ①メンタルコーチと共にチームビルディングを実践
- ②チームで環境・サービス・広報について目標設定を行い、プロジェクトを遂行する。
- ③相談員業務全般の見直しを行い、充足率98%維持を目指す。
- ④要援護者支援センターとして、地域の見守り支援を行う

3. <部門別目標>

<ケア部門>

◎『組織力の向上』・・・新規採用者10名以上の応募

1F プラム棟

組織力向上の取り組みとして職場環境の改善、離職率低下に取り組んだ。

まず、タイムテーブルの変更を行い、業務量の多い時間帯にバランス良く職員を配置することで、業務量の負担の軽減を行った。また、有給の取得であったり役職者からの声掛けであったりと意識して取り組み。結果として退職者の減少につながったと考える。一方で定期的な面談の機会や、介助の場面での細かな支援であったり、課題はたくさんあるため来年度は安定したサービスの提供を目標にやっていきたい。

3F 一般棟

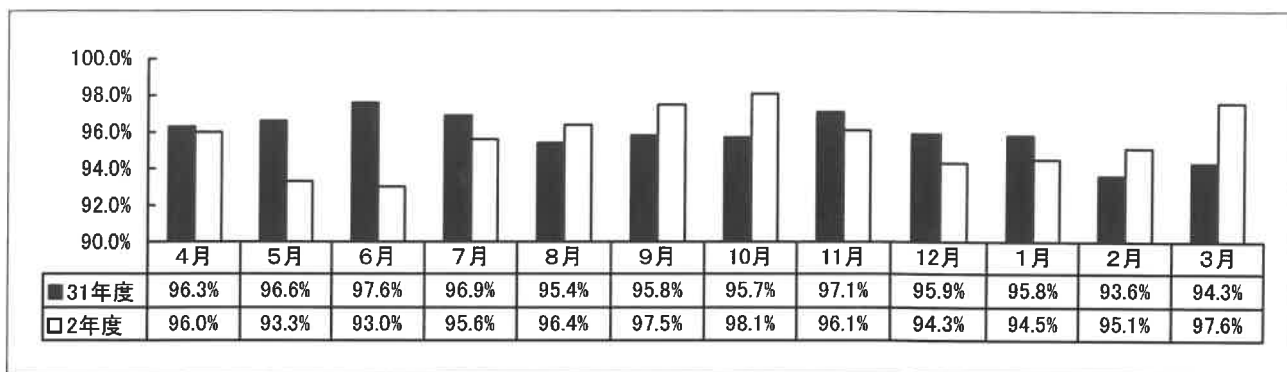
目標であった新規採用5名は達成できなかったが、部署内での組織図の変更や業務内容の見直しを行った。まずは役職者のトレーニングを継続して行い、部署内での意識の統一を図った。各役職者が自身で考える機会が増え、職員への意識が少し変わってきたと考える。また、部署が大きいこともあり細かな介護にはまだまだ課題が残るが環境を整えることから始め、良いサービスが提供できるよう、部署全体で検討・共有していきたい。

<経営部門>

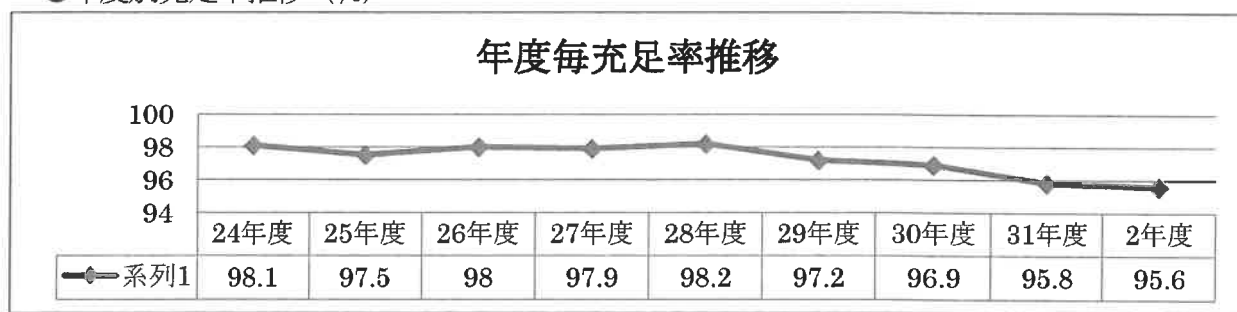
- ①充足率98%維持を目指し、経営基盤の安定を図る
- ②人財確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る
- ③要援護者支援センターとして地域の見守りと基幹福祉避難所の開設訓練を実施

充足率に関しては数値目標を達成できなかった。背景として、重度化に伴い、看取りケア対象者の増加・退所数の増加などの理由が考えられる。また、見学・面接の機会の減少、入所後の個室利用（感染対策）等、コロナのまん延防止策による影響もあった。

●令和2年度月別充足率表



●年度別充足率推移 (%)



●入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和2年度	25	2	13	11	21	13
② 平成31年度	33	1	19	13	27	17
③ 平成30年度	36	4	26	12	33	13
増減①—②	-3	-3	-7	+1	-5	+4

●介護度別年齢別等人数表

令和3年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間2.9年(男性4.0年、女性2.6年)、最高滞在期間14.7年(女性)

要介護度	令和2年度				平成31年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	1	0	1	84歳	2	0	2	82.5歳
2	4	2	3	86歳	6	3	3	82.1歳
3	35	8	27	88.2歳	35	7	28	87.6歳
4	34	10	24	86.6歳	37	12	25	89歳
5	25	6	19	87.9歳	18	4	14	84歳
合計	100	26	74		98	26	72	
平均介護度		3.7	3.8	3.7		3.65	3.63	3.64
平均年齢		85.3歳	88.2歳	87.4歳		85歳	87.8歳	87.1歳
最高年齢		94歳	102歳			93歳	101歳	
最小年齢		62歳	68歳			61歳	67歳	

<看護部>

『心地よい看護を安心・安全・安楽に展開する』

- ①個々のニーズに応じた看護を提供する
- ②心地よく業務遂行できる環境づくり

チーム医療を行う上で欠かせないのが、統一した看護の展開であると考えられる。その為、ゲストの状況を的確に捉え、ニーズに応じた医療を提供していく事が必要不可欠である。今後も部署内でのコミュニケーションを深め、担当フロア以外の情報も適宜共有していきける様、環境づくりを継続していきたいと考えている。又、個々の看護職員のスキルで個人差がある為、この件に関しても、コミュニケーションを図る中で、ゲストにとって何が必要であるかを抽出できる環境も整備していきたい。

●年間業務

月	項目	内容
5月	ゲスト定期検診	胸部X線、採血
6月	全職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、 腰椎X線（介護職員のみ）等
10月	全職員	インフルエンザ予防接種
11月	ゲスト	インフルエンザ予防接種
	介護職員定期検診	採血
随時	雇入時健診	胸部X線、採血

●週間診療表※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

曜日	午前 午後	診療科目	頻度
月	午前・午後	内科	毎週
火	午前・午後	内科	毎週
	午後	精神科	毎週
水	午前	整形外科	毎週
		歯科	毎週往診
木	午前	内科	毎週
	午後	内科	毎週
金	午前	内科	毎週
	午後	内科（糖尿内科）	毎週
土	午前	内科	毎週
	午後	精神科	毎週
平日	午後	眼科	1カ月毎

<機能訓練指導>

- ①日常生活レベルの変化に順じた対応ができる
- ②個別機能訓練の充実（計画・実施・算定）が図れる

各ゲストに沿ったサービスを、多職種と連携しながら作成した計画書の通りに概ね行うことが出来た。訓練士の変更によって提供するサービスが変更したが、定期的なコミュニケーションを図り、身体面だけでなく心理面にもアプローチできた。今後もゲストの声に耳を傾け、新しい機能面だけではなくサービスを提供していきたい。

<栄養科>

- ①栄養マネジメント実施の継続
- ②見て楽しく、食べて美味しい安全な食事の提供
- ③厨房内衛生管理の徹底と災害備蓄食の検討

「栄養ケアマネジメント実施の継続」については、多職種連携し個々の状態に合わせた食事提供の検討を行うことができた。「見て楽しく、食べて美味しい安全な食事の提供」については、委託会社の変更に伴い、体制の整備や調整を行った。また、食事行事も各フロアで実施することができ、季節感や楽しみのもてる時間を提供できたのではないかと考える。「厨房内衛生管理の徹底」については、厨房内物品の整理整頓を行った。今後も委託会社と協議しながら進めていきたい。「災害備蓄食の検討」については、安全に迅速に対応できるよう備蓄食の見直しを行った。備蓄食の保管場所や使用方法についてシミュレーションを実施し、非常時に備えていきたい。

4. <<環境整備等>>

建物や設備の老朽化に伴い、施設環境整備を行う。

項目
防水の緊急工事
空調機整備作業
事務所内装工事

5. <<地域貢献事業・防火防災報告>>

- ①社会貢献委員会が主催する行事に参加
- ②ほっとかへんネット KOBE・西との連携
- ③要援護者支援センターとして、地域の要援護者の見守り業務
- ④基幹福祉又は福祉避難所開設訓練の実施

6. <<職員会議・OFF-JT>>

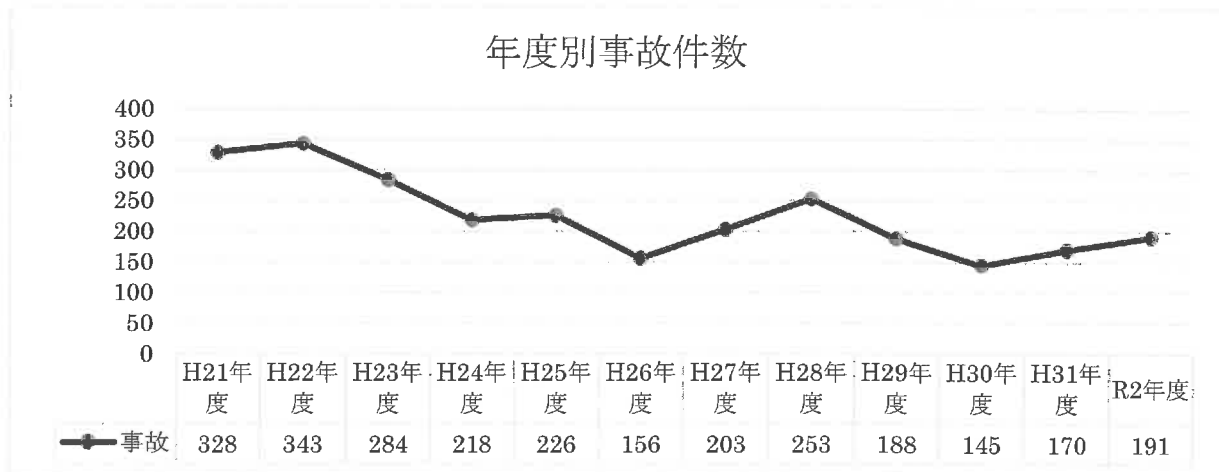
頻度	会議名				
月1回	看取り介護委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	身体拘束適正化検討委員会	チームコーチング	部門会議	給食委員会
	褥瘡防止委員会	全体会議 (1F・3F)	非常災害時対策委員会	営業会議	法人運営会議
	人事委員会	研修委員会	予算・経営会議	広報委員会	技能実習担当者会議
	モチベーションアップ委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	こども参観会議
随時	ケアカンファレンス		人事検討会議		

日付	研修会内容	参加人数
5月27日	感染症まん延防止研修（ガウンテクニック）	9名
6月24日	看取り介護の指針普及・看取りの基礎	9名
7月29日	事故再発防止対策委員会（食事姿勢・誤嚥・緊急対応）	16名
8月26日	非常災害対策研修（土砂災害対策・不審者対策）	11名
10月2・9・16 11月7・13日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	全職員
12月23日	看取り 感染症発生時のマニュアル	17名
2月26日	事故再発防止対策（誤嚥）・身体拘束適正化	24名
3月31日	労働衛生教育	4人
3月中	ハラスメント対策研修	役職者
毎月	チームコーチング研修	役職者

7. <リスクマネジメント報告>

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

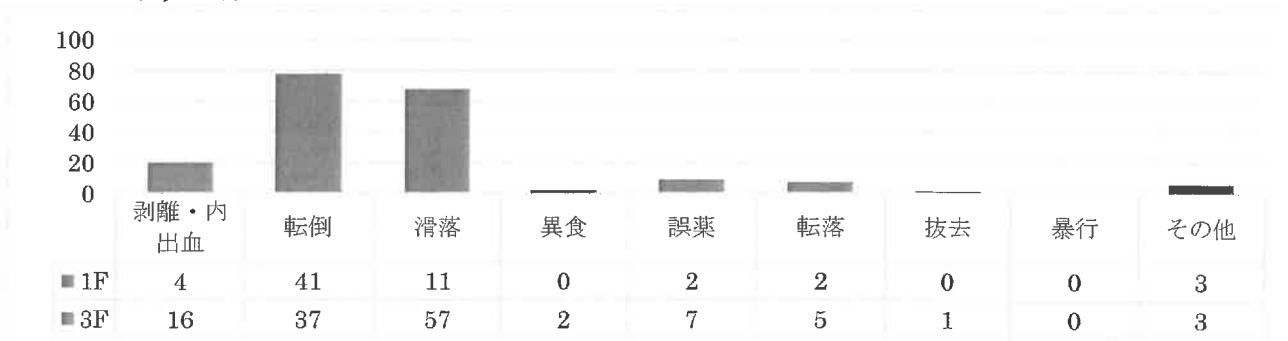


○フロア別内訳

令和2年度		平成31年度	
1F	63件	1F	90件
3F	128件	3F	80件

③発生内容別件数

○事故内容



④リスクマネジメントまとめ

前年度と比較して事故が増加した。発生内容別では転倒事故が最も多く、次いで滑落事故になっている。1Fフロアでは以前に比べ歩行される認知症のゲストが多いことから転倒事故が増加したと考えられる。

3Fフロアでは滑落が最も多く、これは日中居室で過ごされる方や自身で移乗などをされる方が多いため滑落事故に繋がったと考えられる。来年度は部署の特性に合わせたリスクマネジメントの検討を実施し、事故の減少に繋がりたいと考える。

8. <苦情・相談結果報告>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和2年度				平成31年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
1F	0件	0件	0件	1F	0件	0件	0件
3F	3件	0件	3件	3F	4件	0件	4件

○苦情相談まとめ

懇切丁寧な説明と心情理解が不足していたこと。また、4人部屋の同室者とのトラブル等による相談を受けた。

9. <総括>

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に陥り、非常に大きな変化があった1年である。感染症まん延防止策を徹底する中で外出の自粛要請、イベントの中止、面会禁止（オンラインの使用）等を受け、ゲスト・職員ともに生活に大きな影響があった。また、“3密の回避”や“ソーシャルディスタンスの確保”など、人と人の間に距離が開き、コミュニケーションを図る機会が少なくなった。しかし、数々の不安や困難はあった1年ではあるが、チームで力を合わせ、一歩ずつ確実に課題解決が図れたと感じている。

次年度においても、行動目標を決め、職員一人一人が目標に向かって主体的に動き、何かあった際にはすぐに集まって相談し解決できるチーム作りを行う。また、感染症や大規模災害を想定した、日頃の準備と地域の見守り拠点としての役割を全うしたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和2年度重点目標>

『SS充足率95%以上（退所後の実績）を維持・向上を目指し収入の安定を目指す』

① 顧客ロイヤリティを高めリピーター率の向上を目指す

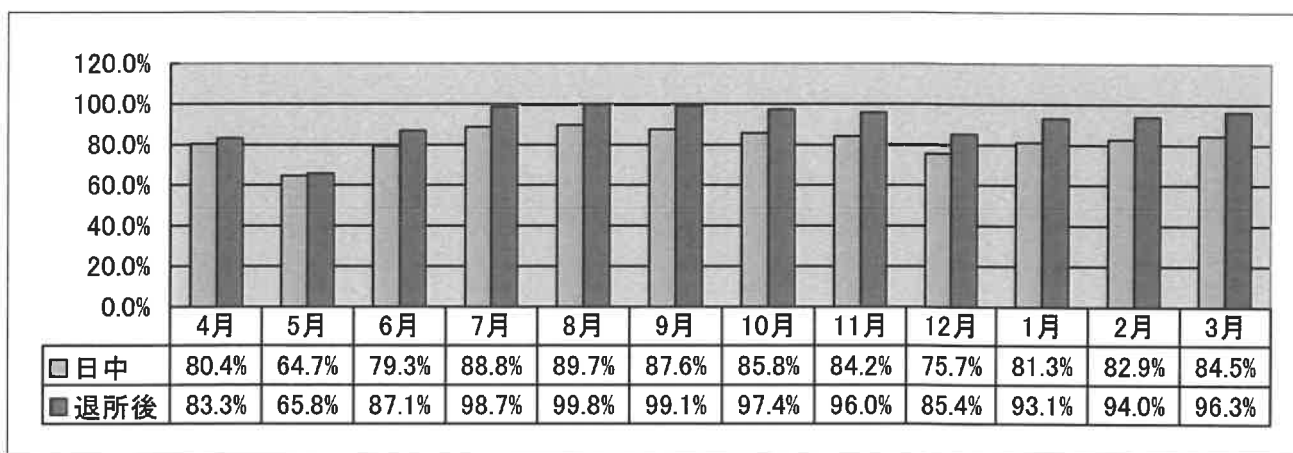
ロングショートのごゲストの状態を家族や他職種が共有し観察する事で、適切なケアに繋がっている。定期リピーターに関しても家族やケアマネジャーと連携しながら月々のリピーターにつながった。医療面、栄養面では介護職員、相談員、看護師、管理栄養士でゲストに安心して過ごして頂く為に問題点を話し合い、協力しながら問題解決へつなげていく事ができている。送迎面では介護職員が送迎する機会も増え家族に直接ゲストの状態を伝えることで信頼関係の構築に繋がっている。

② 他事業所との連携強化（新規ゲスト目標：年間40件）

コロナ感染症対策により自宅で担当者会議が減少し他事業所のかかわりが減ってしまったが以前よりコミュニケーションが取れていた他事業所の方に連絡をとりコロナ禍の利用状況や感染対策などの情報も交換することができた。デイサービスのゲストがショートステイを利用することも多くなり部署間で情報交換を密にしながらスムーズに受け入れを実施することもできている。また緊急時の受け入れも空床情報などを共有することで相談員不在時でも受け入れがスムーズにできるようになっている。

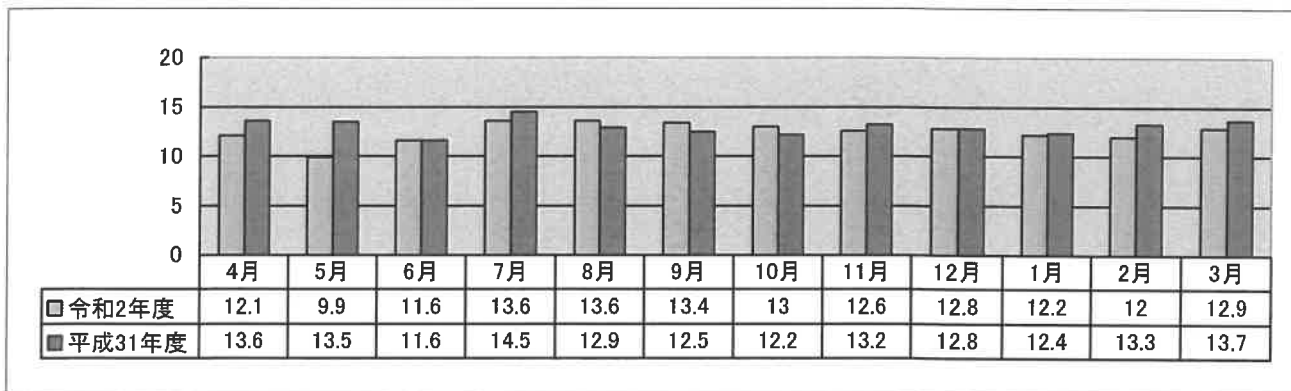
○充足率→日中82.07%、退所後84.21%

(前年平均 日中96.68%、退所後86.28%)



○平均人数→日中12.2人、退所後12.4人

(前年度平均 日中13.7人、退所後12.9人)



●介護度別年齢別等人数表（3月31日時点での実人数）

要介護度	令和2年度				平成31年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	0	1	85.4歳	1	1	0	80.1歳
支援2	5	3	2	88.3歳	16	4	12	87.7歳
1	20	1	19	85.8歳	34	14	20	84.0歳
2	50	20	30	81.0歳	67	23	44	90.4歳
3	106	36	70	90.7歳	116	56	60	81.2歳
4	106	26	80	87.4歳	114	29	85	89.3歳
5	85	49	36	87.4歳	99	25	74	82.1歳
合計	373	135	238		447	152	295	
平均介護度		3.8	3.4	3.5		3.1	3.4	3.3
平均年齢		82.1歳	89.8歳	87.3歳		78.8歳	88.4歳	85.1歳
最高年齢		93歳	98歳			95歳	99歳	
最小年齢		63歳	62歳			61歳	56歳	

- <経営部門>
- <看護部>
- <機能訓練指導>
- <栄養科>

3. <<環境整備等>>
4. <<地位貢献事業・防火防災報告>>
5. <<職員会議・OFF-JT>>

特別養護老人ホーム弥勒園同様

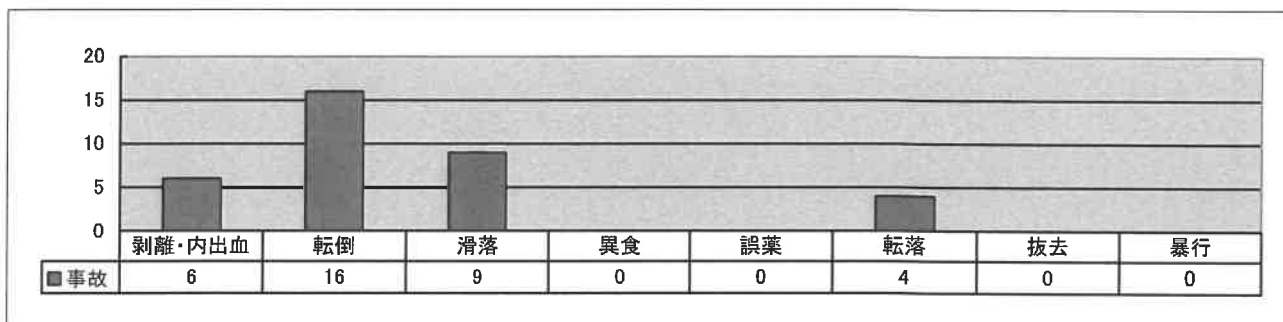
6. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

	令和2年度	平成31年度
事故件数	35件	36件

②発生内容別件数



③まとめ

事故件数は減少したが、同じゲストが繰り返し転倒するような事故が発生している。要因としては、コロナウイルス感染予防対策として、感染疑いのあるゲストに関しては個室にて72時間隔離状態で過ごして頂くため、見守り不足となり転倒や滑落が発生している。感染症予防対策は今後も継続していくため隔離状態でも見守りできるセンサー設置位置、巡回の強化など統一した対策で部署、他職種間で周知できるようにする。

7. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	令和2年度			平成31年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	0件	0件	3件	1件	0件	1件	

○まとめ

荷物を写真で管理することで紛失や返却忘れは減少してきている。今年度は荷物管理だけではなく、尿汚染した衣類で帰宅、貼り薬が所定の場所に貼っていない、無記名の衣類に不適切な場所に大きく名前を記名したなど対応した職員の気配り、認識不足からよる相談であった。対応した職員に対して都度伝えることや、部署としても取り上げ統一した認識や気配りが出来るように周知していきたい。

8. 《総括》

令和2年度新規契約者は42件であり、昨年と比較して10件減少し充足率95%の目標には到達できていない。要因としてコロナ感染症が大きく影響している。利用中のゲス

トが感染症濃厚接触者の疑いで緊急的に感染予防対策をすることもあり、その際は利用を控えるゲストが多く空床に繋がった。しかし感染対策の話し合いを行い送迎時、利用中、他のゲストと接触を避ける対策等迅速に行うことができ、疑い解除後は通常利用に戻すことが出来た。又定期ゲスト、新規ゲストを受け入れる際、他の事業所（デイサービスやショート）を併用するゲストが多く感染リスクは高くなるがゲスト個々のサービス利用状況を把握することで迅速に対策が行うことが重要と考える。今年度の傾向としてロングショートから特養入所に移行するゲストも多く、ショート利用期間が短く入れ替わりが激しくなり、現場職員は新規ゲスト対応に追われることで気配り、認識不足の対応に繋る要因と考える。しかし、コロナ感染症予防対策から外部の新規入所者を確保するより感染リスクも低く迅速に特養入所を行ったことも充足率につながっている。来年度は特養の空床利用も有効活用し安定した充足率向上に繋げていきたい。

令和2年度 事業報告書（案）

大慈デイサービスセンター

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. <令和2年度重点目標>

- ① 遠藤メソッドの推進と個々の介護技術・スキルの向上
- ② 職員が輝ける職場環境を築く

3. <部門別目標>

〈ケア部門〉

① 遠藤メソッドの推進と個々の介護技術・スキルの向上。

指摘項目に対し、技術標準の作成及び職員への教育を行った事で、重点的に行った送迎時におけるインシデント・アクシデント報告は減少している。要介護3以上のご利用者が増加する中、福祉用具の活用やDS部会での研修を行い、自主パトロールで評価する事で、介助時における事故件数も減少しており、介護技術・スキルの向上につながったと考える。

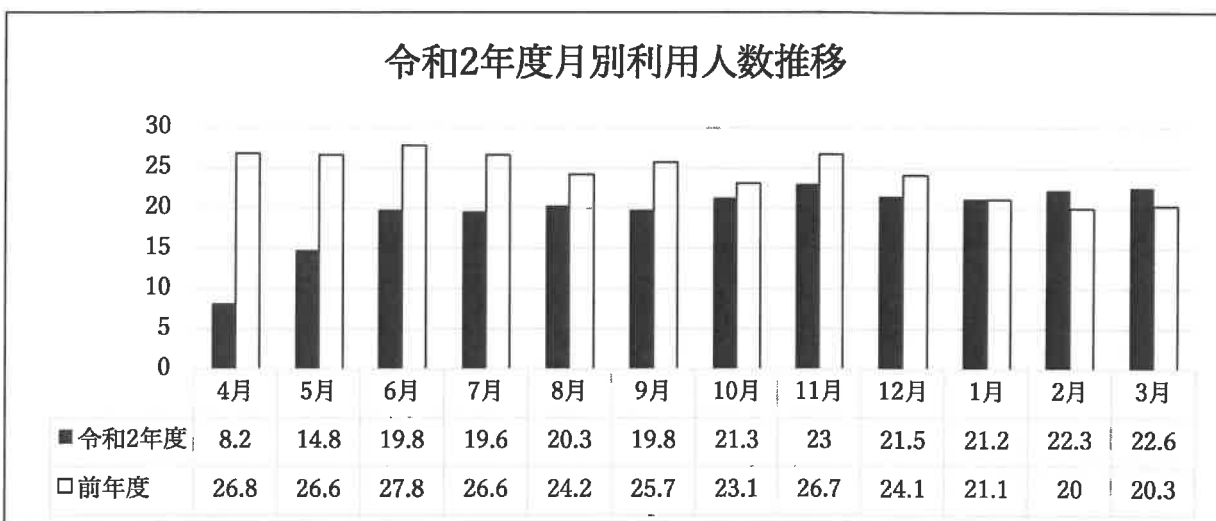
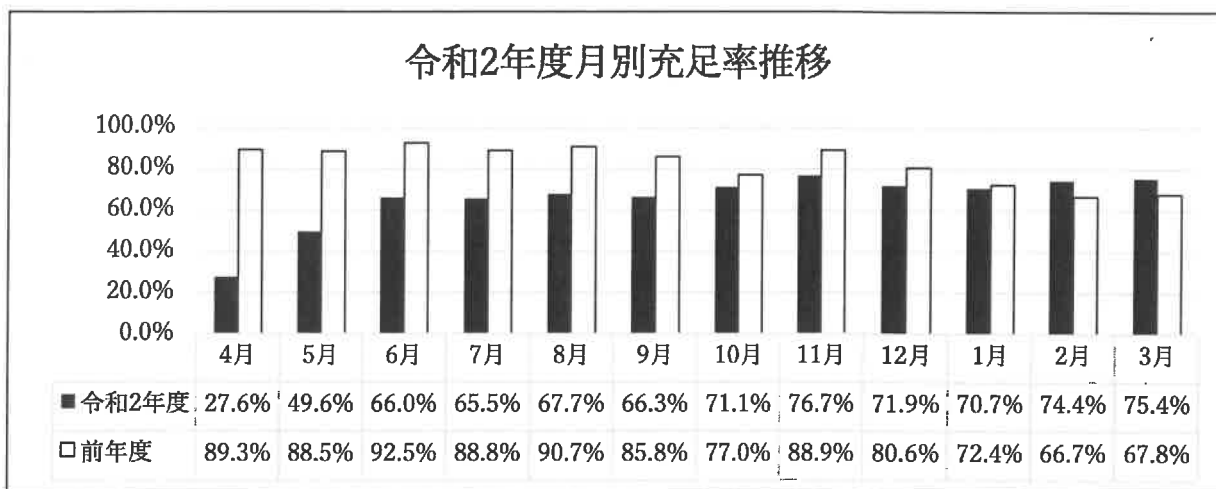
② 職員が輝ける職場環境を築く。

職員の役割を明確にし、月1回の部門会議を行う事で職員間のコミュニケーション機会が増え、自発的に意見を言い合える環境になっている。結果、ご利用者へのサービスに繋げる事も出来た。

しかし、業務上の人員不足による業務圧迫により、決められたことが遂行できない現状もある。次年度についても、コミュニケーション機会がさらに増えるよう職員面談を行い、職員個々の強みをケアに繋げられるよう取り組んでいく。

〈経営部門〉

- ① 充足率90%を維持し、経営基盤の安定を図る。
- ② 広報戦略を練り、新規顧客獲得を目指す。



新型コロナウイルス感染症対策に伴い、4月～5月については、利用の制限を行った。徐々に利用者数・充足率共に回復傾向を示した。
各事業所への営業活動も感染症を懸念し、前年度に比べると少なくなっている。新規利用者と並行し、登録抹消者や入院者の増加もあり、充足率の上昇には至っていない。次年度においては、地域ニーズを理解し、営業方法及びデイサービスの『強み』を検討し、充足率の増加を目指す。

●自費サービス別件数

		前年度平均	今年度平均	差
洗濯サービス	人数	24.8	15.1	-7.1
園芸療法	人数	2.3	2.1	-0.2
弁当	人数	14.1	9.1	-5.0
	回数	206.6	167.7	-38.9
学習療法	人数	3.6	1.6	-2

●介護度別年齢別等人数表

要介護度	令和2年度				平成31年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	31	2	29	84.7歳	38	11	27	86歳
支援2	63	24	39	85.2歳	89	30	59	86.3歳
1	163	67	96	86.1歳	273	101	172	86.1歳
2	97	14	83	87.5歳	138	32	106	88.9歳
3	124	29	95	86.7歳	146	78	68	85.1歳
4	79	43	36	86歳	49	17	32	84.7歳
5	70	23	47	81.8歳	73	26	47	79.2歳
合計	627	202	425	84.7歳	810	295	511	
平均介護度		2.3	2.3	2.3		2.4	2.3	2.3
平均年齢		83.2歳	87.5歳			83.2歳	87.5歳	85.3歳
最高年齢		92歳	100歳			94歳	97歳	
最小年齢		67歳	78歳			66歳	76歳	

〈栄養科〉

○見て楽しく、食べておいしい安全な食事の提供

今年度は、委託業者の変更に伴い、食事提供方法の体制整備や調整を行った。調理方法や食材の検討過程で、ご利用者より意見を伺い、改善を図る事で安全な食事の提供に繋げることが出来た。また、感染症対策を行いながら少しでも多くのご利用者に食を楽しんで頂けるよう行事開催を行い、季節感や楽しみのもてる時間を提供できたのではないかと考える。今後も、ご利用者により楽しく安全なお食事の提供ができるよう努めていきたい。

●年間行事食

日付	行事名
4月	
5月	母の日週間
6月	父の日週間
7月	七夕週間
8月	夏祭り週間
9月	敬老週間
10月	
11月	
12月	クリスマス週間
1月	餅つき週間、白玉ぜんざい作り
2月	ひな祭り週間
3月	

〈看護部〉

○異常の早期発見と情報共有

今年度においては、入浴時の皮膚状態の観察や介護支援専門員との情報共有を密にし、悪化に繋がる事例は殆どなかった。在宅生活での長期臥床による褥瘡形成についても、主治医・ご家族との連携を図りながら、早期完治に繋げる事が出来た。今後も、関係職種との連携強化に努め、ご利用者に適切なケアが提供できるようにしていく。

4. <施設整備等>

建物や設備の老朽化に伴い、施設環境整備を行う。

5. <職員会議・OFF-JT>

☆ 特別養護老人ホーム大慈弥勒園同様

6. <行事の実施内容>

●年間行事

行事名	時期
園庭花見	4/3～4/7
利用再開感謝祭	6/8～6/13
夏祭り	8/17～8/22
食事行事(天ぷら)	9/16
買い物ツアー	11/9～11-28
餅つき・白玉ぜんざい作り	1/4～1/9
食事行事(粉もの祭り)	3/8

7. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○令和2年度報告件数

	令和2年度	平成31年度
事故件数	9件	13件

②発生内容別

剥離・内出血	転倒	滑落	事故・その他
1件	5件	1件	2件

③まとめ

前年度より、事故件数においては4件減少している。最も多い転倒事故については、突発的に起きたものが殆どであるが、ご利用者の身体状況やその日の体調を職員間で共有する事で防げた事故も多かった。朝礼や帰宅前ミーティングでその日の情報を共有し、次回利用時の注意点を確認する事や自主パトロール(遠藤メソッド)頻度を増やすことで、職員の危険意識の向上に繋がると考える。次年度においても、ヒヤリハット検証や自主パトロールでの教育と情報共有を行い、事故発生防止に取り組んでいく。

8. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

① 報告件数

令和2年度				平成31年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	5件	0件	5件		2件	1件	1件

②まとめ

前年度に比べ、相談件数の増加が見られる。内容としては、感染症対策に伴う職員の対応や認識の甘さやご利用者の情報を相談員から末端職員までの周知遅れ、利用日の見落としがあげられる。

利用日のチェック方法や情報共有方法を改善することで、件数の減少に繋がると考える。

9. <総括>

感染症対策や利用の自粛・入院等により、充足率は10%の減少を示した。感染症対策の観点から、営業方法の見直しが遅れ、新規ご利用者件数も前年度に比べると減少している。デイサービスの『強み』である、要介護者(3~5)へのケアについては、会議での技術面の共有や遠藤メソッドによる自主パトロール、福祉用具を活用するなど、双方の負担軽減及び技術向上に繋げる事ができた。

次年度においては、地域包括支援センターとの連携を図りながら、地域ニーズを把握し、新たな『強み』を確立、並行して営業活動を積極的に行い、新規顧客の獲得と事業計画の達成及び利用者満足度の向上に繋げていく。

令和2年度 事業報告書 (案)

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。措置施設として社会的役割を果たせるように努める。

2. <令和2年度重点目標>

①自立支援の強化

今年度はコロナにより自立支援強化が進まなかった。外出禁止、体操中止や居室で過ごすことを勧めた為、逆にADLが落ちた1年であった。今後はコロナと付き合いながらどのようにADLを上げていくかが課題になる。

②より良い看取り介護の実践

看取りに関してもコロナの影響を受けたと思う。通常であれば家族様にも自由に会ってもらえるゲストでもコロナにより面会の時間の制限、マスクやフェイスシールド着用が必要になるなど、どうすればいいのかを考えることが多かった。葬儀に関しても今までのようにゲストに見送って貰うことが出来ず寂しい葬儀が多かったように思う。

③遠藤メソッドを推進していく

パトロールを定期的に行うことで自分たちだけでは見えていない良い所・悪い所が見えていい傾向にあったので、自主パトロールを増やし、注意点はその場で指導することで実施率も上がっているので来年度も続けたい。メソッド担当だけでなく、対策をみんなに考えて貰うなど、仕事を任せることでそれぞれが自分の事である自覚を持って来ていると思う。

★大慈吉祥園利用者数 (定員70名) (女性52名 男性18名) 令和3年3月31日現在

年 性	年								合計
	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~104	
女	0	4	4	4	7	2	0	0	18名
男	0	1	6	13	17	11	4	0	52名
合計	0	5	10	14	24	13	4	0	70名
最高年齢	男歳91 女歳99		最年少	男歳70 女歳72			平均年齢85歳6ヶ月		

3. <行事食>

日付	行事名
4月	
5月	母の日
6月	父の日、
7月	七夕
8月	

9月	敬老の日
10月	
11月	
12月	クリスマス会
1月	おせち
2月	
3月	ひな祭り

4. 《職員会議等》

頻度	会議名		
月1回	処遇会議	職員会議	主任会議
	各担当者会議		
随時	ケアカンファレンス	医務部会	事務部会

各委員会の活動については、大慈弥勒園に準ずる。吉祥園が独自で実施している会議に関して職員会議（第1木曜日の10時）、処遇会議（第3月曜日15:00か18:15）を実施した。コロナ対策で縮小や時間短縮するなど工夫をしながら行った。行事・連絡事項・各係担当者からの報告など、主に共有すべき事柄に絞り、処遇会議に関してはゲストの処遇を中心に話をするようにした。

5. 《クラブ活動》

行事名	頻度	人数	講師等	行事名	頻度	人数	講師等
レクリエーション	毎日（グループ毎）	1～5名	職員	買物ツアー	不定期	1～7名	職員
シルバー体操	月8回（水曜日・木曜）2部分け	30名	村越先生 和田先生	ラジオ体操 嚙下体操	毎日 日2回	全ゲスト	職員
華道	月1回	7名	西脇先生	生活リハビリ	月1回	3名	職員
絵手紙	月1回	10名	シルバーカレッジ	書道	月1回	10名	下村先生
園芸療法	月1回	6名	外部講師				

クラブ活動に関して、今年度はコロナで中止になることが多かった。再開すると参加される方も多く、外出出来ない分クラブ活動は重要だと感じた。体操に関しては新たな先生を迎え実施。参加率も良く、感染防止を考慮しながら実施出来たと思う。来年度は更に体操が1日増えるので、外出が自由に出来ない分、体を動かして欲しいと思う。

6. 《年間行事》

月	年間行事名	月	年間行事名
4月	お花見(園内)中止、 ボーイスカウト慰問中止	10月	プチ旅行(7月～10月)園内食事に変更、 同朋にこにこ保育園交流会招待中止
5月	母の日お祝い会	11月	吉祥園祭(文化祭)縮小
6月	寿司食事会、父の日お祝い会	12月	つぐみ保育園慰問中止、クリスマス会
7月	七夕	1月	新年会、初詣(諏訪神社)、書初め
8月	盆供養、花火(納涼祭)	2月	節分(おやつ)
9月	大慈秋祭り中止、敬老のお祝い会 (喜寿・米寿)、秋の彼岸法要	3月	雛祭り、春の彼岸法要

7. 《毎月の行事》

定例行事
誕生者会食(第3木曜日)、お誕生日会(第3月曜日)、健康チェック(体重・血圧測定)(中旬)、買物ツアー・にこにこツアー(隔週月曜日)、理髪(第2月曜日)、園芸療法(第4月曜日)、月命日(第4水曜日)、ビデオ観賞会(随時)

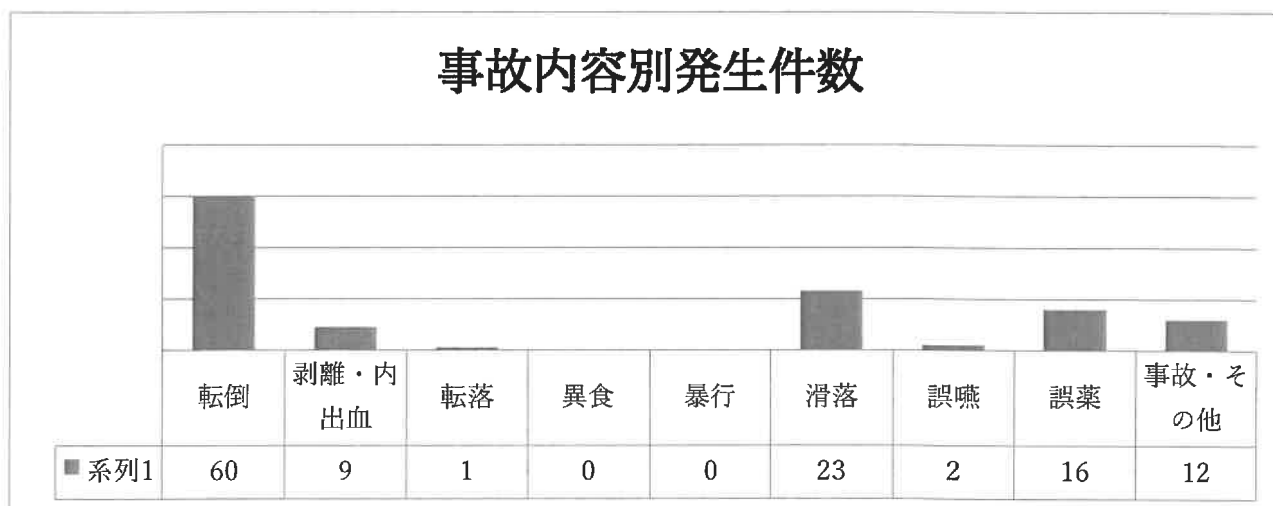
8. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

年度別報告件数

報告件数	令和2年度			報告件数	平成31年度		
	事故	事故	ドキドキ		合計件数	事故	ドキドキ
	366件	123件	243件		251件	107件	144件

1 発生内容別件数



2 まとめ

前年度に比べ、事故件数16件、ドキドキ件数99件増加。

前年のドキドキ件数が少なすぎることがあり、職員間でドキドキをもっと上げるように周知しこのような件数になった。防げた事故として落葉が多いが目立つ。特に朝食後菓の落葉が多い。遠藤メソッドを共有・研修しつつ行っているが、減っていないのが現状である。配菓の仕方などを根本的に変更してみるなど、今後やり方を検討する。転倒の件数に関しては前年と比べ16件減少。PTと連携し、リハビリに力を入れている。タイムテーブルに組むなどして、全職員が実施出来る様に工夫し実施率をアップさせている。また、誤薬事故があったので、その後の対応などが不十分であった。発生してはいけない事故であるが、してしまった時の対応方法なども会議の場を設け、周知していきたい。

1.2. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

報告件数

令和2年度				平成31年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	7件	0件	7件		10件	0件	10件

まとめ

今年度はコロナによる外出制限の相談は省いた結果11件であった。こちらがそういう思いで掛けた言葉ではなくても、相手の受け取り方次第で相談になるので声かけのスキルをあげる必要があると感じた。

1.3. 《総括》

前年度に引き続いた目標であったが、今年度はコロナに大きく影響を受けた。不明瞭な情報の中で動き、制限し、結果ADLの低下が顕著に現れたと思う。外出できないことがここまでADLの低下に繋がるとは思っていなかったのも、コロナ解除になった際、ゲストが一人で外出をすることができるのかが心配である。

看取りに関しては、コロナであることを家族様も理解して頂けていたので面会制限等による相談等は無かったが、ゲストが見送ってくれる葬儀ができなかったのが残念であった。

遠藤メソッドではメンバーが増え、パトロール強化したり、会議ごとに指摘事項を伝える等積極的に動いていたと思う。常に課題は残るものみんなの理解は深まって行っていると思う。コロナの不安を抱えながら、影響を大きく受けた1年であった。来年度はコロナと上手く付き合いながら動いていけるようにしたい。

令和2年度 事業報告書（案）

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。また、措置施設として地域社会における役割を果たせるように努める。

2. <令和2年度重点目標> ※吉祥園に準ずる

①自立支援の強化

吉祥園①に準ずる

②コミュニケーション力の向上

毎月の処遇会議資料作成のためやケアカンファレンス資料作成に担当ゲストと話をしに行ったりとコミュニケーションを取りに行く機会は取れたと思う。その反面コミュニケーション不足による信頼関係ができておらず苦情相談で上がってくるケースもあったので、より一層の向上が必要と思われる。接遇の研修などは、コロナで会議縮小していたこともあり研修の時間を取ることができなかった。ゲストもストレスを多く抱えながら生活をしているのでコミュニケーションをとる時間をより一層増やすことができればと思う。

3. <職員体制>

管理者 1 名	介護支援専門員 1 名（吉祥園の相談員兼務）	支援員 6 名
	相談員 1 名（吉祥園主任相談員兼務）	

令和2年度 事業報告書 (案)

ヘルパーステーション大慈

1. <基本方針>

介護を提供するプロとしての意識を十分に持ち、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した“安心・安全な生活”を営むことができるよう生活全般に渡る援助を行う。関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス機関との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

2. <令和2年度重点目標> ※大慈吉祥園に準ずる

①介護サービスの調整・管理と給付管理

職員が資格を取れたことで人員配置の調整をすることができ、請求を50名までで調整していたところを令和2年度11月より全員の請求をすることが出来るようになった。

3. <職員体制>

管理者1名	サービス提供責任者3名(訪問介護兼任)	訪問介護職員4名
-------	---------------------	----------

令和2年度 事業報告書 (案)

特別養護老人ホーム 大慈智音園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. <令和2年度 施設の目標>

① 当たり前を当たり前以上に (整容について)

自分たちが毎朝、普通にしている事に気づき、身だしなみについて整っていない場合、普通に、整容ができるように、リーダー・サブリーダーをはじめ毎月、会議にて話し合い数字で表すことで意識を高めていった。スタッフ一人一人の価値観もちがうため、統一こそできなかったが、一人一人が注意を払い、サポート時に確認するようになった。

② 日常の生活を送る姿勢の見直し (座位・臥床体位について)

フロアで過ごしているときの座位姿勢、居室での安楽な体位で臥床するために、巡回や訪室時にそれぞれの職種が目を配り、確認を行った。普段、とっている姿勢の中で、スタッフには何気ないいつもの光景を他職種がみることで疑問に思うことを話し合い、共同で安楽な姿勢、正しい姿勢について話し合った。

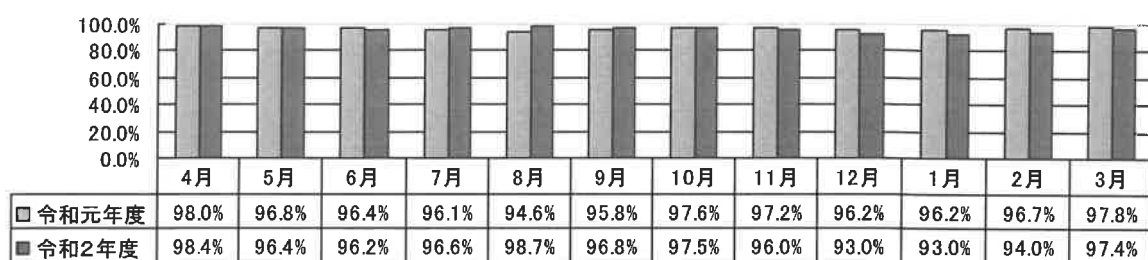
③ 遠藤メソッドでの教育体制の検討・見直し

介護技術標準を使い、新入スタッフや中堅スタッフに指導する機会を作った。指導した内容が行えているか、服薬時に定期的に見回り、呼名、いつの薬かを読み上げることで、服薬間違いの事故は減るが、飲み込み確認までが確実にできていないため、落薬事故の件数が増える結果となった。最終飲み込み確認まで行うことで、一連の動作が終わること再指導し、次年度は薬に関する事故がゼロになることを目指す。

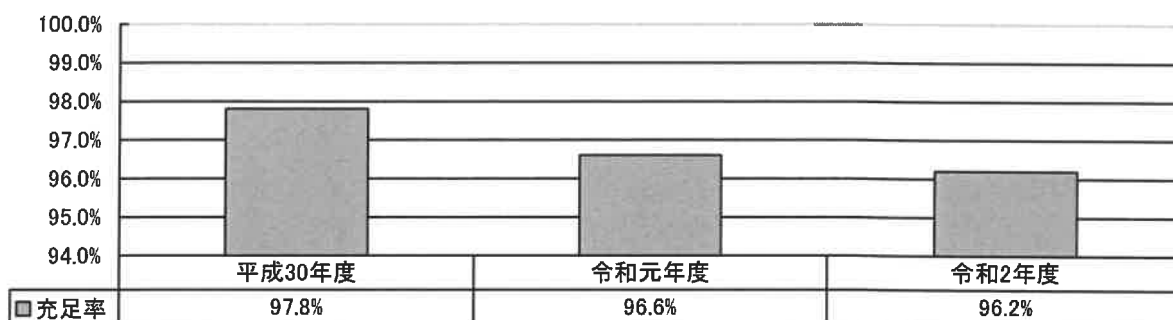
4. <経営部門> (96.2%)

昨年度より、施設で看取りを行う件数が増えた(10件⇒17件)待機者に次の入居の連絡を入れるが、他のところに決まった、もう少し現状で頑張りますとの返答が多く、スムーズに入居につなげることが出来なかった。また、入院が例年より冬場にかけて多く、稼働率が大幅に下がる結果となった、入居と退居のタイミングを上手く活用できなかったことも要因となった、ショートと連携しながら空床も利用するが、目標の数値には達成できず、96.2%という結果となった。

●令和2年度月別充足率表



●※1 年度月別充足率推移 (%)



●※2 入退所等内訳表 (人) (延)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①令和元年度	24	24	35	26	16	12
②令和2年度	22	23	41	31	22	0
増減②-①	2	-1	6	5	6	-12

●介護度別年齢別等人数表

令和3年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間34ヶ月（男性27ヶ月、女性35ヶ月）

最高滞在期間69ヶ月

要介護度	平成31年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1								
2	3		3	97.7	3	0	3	94.3
3	28	6	22	85.3	24	3	21	89.4
4	20	2	18	89.2	22	7	15	88.2
5	19	4	15	88.7	20	3	17	85.7
合計	70	12	58	90.2	69	13	56	88.2
平均介護度		3.8	3.8	3.8		4.0	3.8	3.9
平均年齢		82.7	88.9	87.9		83.6	88.6	88.2
最高年齢		100	102			95	100	
最小年齢		68				69	69	

5. 《OFF-JT》

日付	研修内容	参加人数
6/24	労働衛生委員会の取り組み	13名
7/31	リスクマネジメント	12名
12月	ガウンテクニック（ユニット会議にて）	26名
9月～12月 10日	不適切なケア	67名
1/27	感染・褥瘡・看取り	11名

6. 《年間実施行事》

月	年間行事	
	施設内行事	外出行事
4月	お花見（花見弁当・甘酒）	
5月	母の日（マフィン作り）	動物王国⇒中止
6月	父の日（ノンアルコール提供）	須磨水族館⇒中止
7月	七夕（七夕弁当）	須磨水族園⇒中止
8月	園庭花火 アイスクリーム屋さん	
9月	敬老の日	天文科学館⇒中止
10月	秋祭り・秋の味覚	にこにこ保育園交流・買い物ツアー⇒中止
11月	雑炊とお漬物	明石芝居小屋⇒中止
12月	クリスマス会・年越しそば・ケーキ作り	
1月	元旦（正月料理・鏡開き・七草がゆ）	
2月	節分・バレンタイン	
3月	ひな祭り・土鍋ご飯	

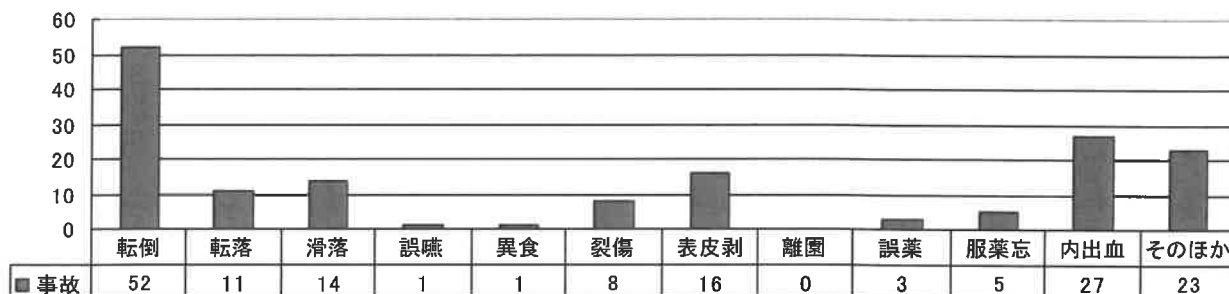
7. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	平成31年度	令和2年度
事故件数	135件	161件

② 発生内容別件数



③まとめ

事故件数の増加がみられた。ゲストのADL低下や見守り不足が原因と考えられる。認知症の方が骨折後、車いす生活となり歩行困難となったことが理解できず転倒に至るケースが多い。誤薬・服薬忘れの事故は、服薬事故の減を目標に取り組んでいるため、昨年に引き続き、件数を減らす事ができた。その他の内容には、落ちていた薬を発見するという事故の内容が多くみられた。

8. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

●報告件数

報告件数	平成31年度			報告件数	令和2年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	36件	0件	36件		41件	3件	38件

●まとめ

日常生活を送るうえでの小さな相談や情報共有のミスが多く、ご家族から尋ねられることが多かった。またスタッフのゲストへの対応の不満が続き、2件続けてご家族にお越しいただき、説明の機会を作ることとなった。次年度は、大きな苦情とならないように、情報共有のシステムの構築、スタッフのスキルアップができるように施設全体で取り組む。

9. <総括>

今年度の目標の数値を達成することが出来なかった、理由として、昨年度より待機者の確保に努め申込書が届くと連絡を入れ面接に訪問しているが、待機者確保に努めているのは他の事業所も同様であり入居者の奪い合いになっている状況であると考えられる。秋から冬にかけて入院者が多く、ベッドが空いている状態が続きスムーズに稼働率を上げることが出来なかった。今後は、空きベッドを見越しての入居、病院との連携を取りながら入居を検討することも必要と考える。新型コロナウイルス感染症に伴う影響で、直接お会いしての担当者会議の開催や面会時の情報交換の場が少なかった。スタッフの入れ替わりが多く、サポート内容の統一できなかったため、次年度は、スタッフの定着とサポートの統一、マナーの向上に努めたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいてゲストが相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 令和2年度 施設の目標 (97%)

①ご自宅での生活リズムに合わせたサービスの提供

個別に聞き取りを行い、どのように過ごしたいか、ご希望に沿えるようにサービス内容を調整する。ご家族の意向とご本人の意向の違い、ご本人の状態とご家族の意向の違いを調整することの難しさを感じる一年であった。

②レクリエーション活動の実施

午前、午後の体操と午後からはレクリエーションも行い余暇活動の充実に努める。レクリエーションの幅は広く、その日に利用している方のそれぞれの個性や得意分野をみながら、選択し楽しんでいただけるように工夫をおこなった。

③遠藤メソッドへの取り組み

服薬介助の方法を介護技術標準を使用しながら、新入職のスタッフや中堅スタッフにやるべきノウハウを伝えて行くことで事故の件数を大幅に減らすことが出来た。

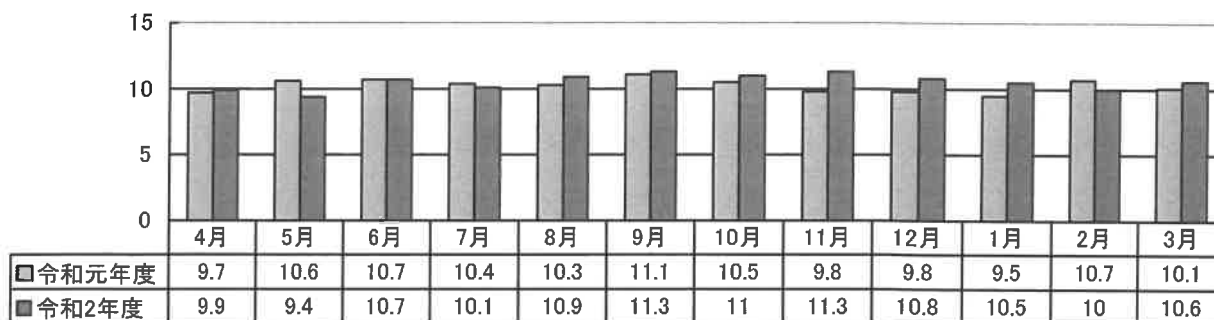
4. <経営部門>

①充足率の向上(充足率92.5%)

目標の97%に到達できなかった理由として、新型コロナウイルス感染症に伴う感染拡大防止のためショートの入退所を中止しロングステイの利用に変更に切り替えたことによる稼働率低下が要因と考える。その後も空床利用など活用し受け入れを行うが、目標達成にまで届かなかった。

●平均人数→日中11.3人

(前年度平均 日中10.54人)



●介護度別年齢別等人数表（令和3年3月31日時点での実人数）

要介護度	平成31年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	1	0	82	1	1		85
支援2	4		4	90.8	2	1	1	80
1	8	1	7	87	8	3	5	88.6
2	19	2	17	88	15	2	13	88
3	26	11	15	86.9	16	6	10	88.4
4	12	5	7	80	8	3	5	87.1
5	11	4	7	82.5	6	2	4	80.5
合計	81	24	57		56	18	38	
平均介護度		3.4	2.6	2.8		2.9	3.6	2.7
平均年齢		80.4	87.9	86.6		83.5	82.3	86.8
最高年齢		99	99			95	98	
最低年齢		72	73			70	67	

5. 《年間行事》

6. 《OFF-JT》



大慈智音園同様

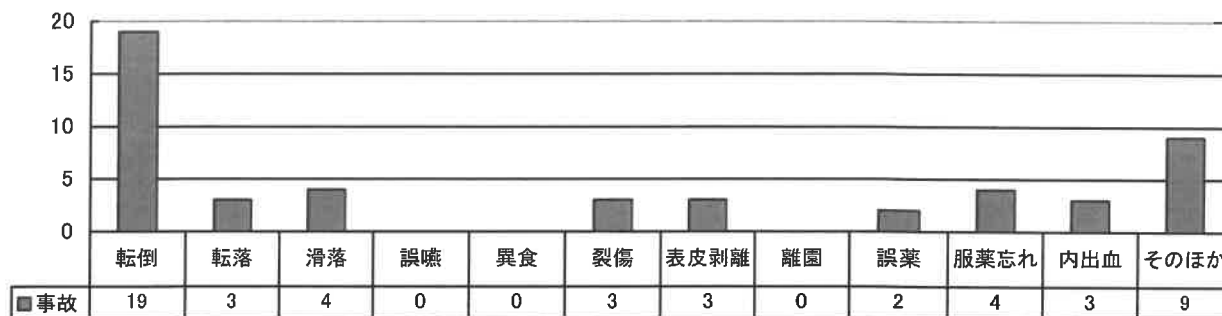
7. 《リスクマネジメント報告》

事故の定義→膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

	平成31年度	令和2年度
事故件数	31件	50件

②発生内容別件数



③まとめ

事故件数の増加がみられる、特定ゲストの転倒や滑落、裂傷が多く、認知症のため常時側にいることができずに起きたケースが多かった。動き始めがわかる対策を考えるなど、見守りの行える位置で過ごしていただくが、隙間時間はでてくるため、転倒に至り件数を増やす結果となった。誤薬に関しては特養同様に介護技術標準で服薬時のノウハウを伝えていっているため、ゲストを間違える誤薬はなく、容量の確認ミス、屯用と常用の服用まちがいであった。また最後まで確認が出来ず、服薬忘れとなってしまうケースも4件みられた。引き続き、服薬に関しては、全員に周知し事故件数がゼロになるよう伝えていく。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	平成31年度			令和2年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	9件	0件	9件		8件	1件	7件

○まとめ

苦情相談件数としては、8件と少なめであり、その中でも苦情となったのは、1件である。契約時の説明にはなかったというものであり、こちらの説明を理解されていると思い込んだことによる苦情となった。その後、説明を行い謝罪することで大きな問題とならずにすんだ。今後もお家族が理解しているかの確認と確認のできる書類を作り苦情に繋がらないように工夫が必要である。

9. 《総括》

4月から5月にかけては、新型コロナウイルス感染症に伴い、ショートの入退所を一時中止しすべてをロングステイに変更して運営を行った、そのため、定期ゲストが他の事業所に移ってしまう事態となった。新規ゲスト獲得に向け、居宅等へ空き状況を知らせるなど対策を行い、特養の空床も利用するが、目標には届かない数字となった。このようなコロナ渦でもゲスト数の確保、感染防止対策を行うことでの運営の継続ができる体制を整えることが必要である。またゲストの思いと状態、ご家族の意向の相違がありサービス調整が困難な事例もあった。ご家族の思いに答えられないと利用が中止となるため、ケアマネジャーとの情報の共有・情報の交換が常に必要と感じた。

令和2年度 事業報告 (案)

ケアハウス大慈

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《令和2年度重点目標》

<ケア部門>

①基本に忠実な介護を目指す

- ・整容、整理整頓を行い、基本的なケア、当たり前のケアを徹底する
- ・ゲストに寄り添うケアが提供できる人材育成を行う

②業務の効率化と標準化

- ・「24時間シート」を作成し、日々の精度向上とケアを見直す

③施設サービス計画の参画と充実

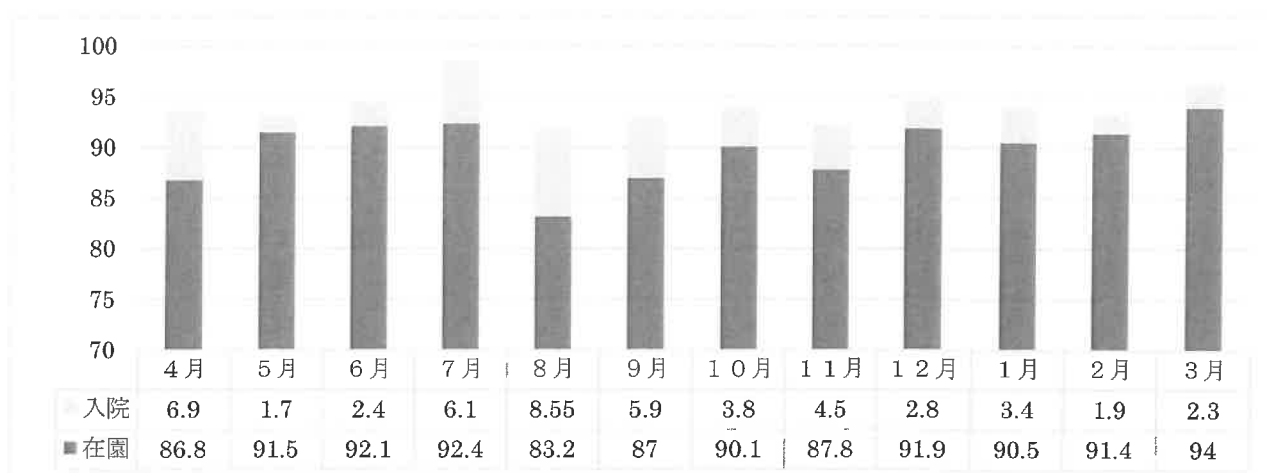
- ・多職種協働で方向性を確認する
- ・モニタリング評価や24時間シートを活用し課題を抽出する
- ・一人一人の生活習慣や好みを尊重し、満足度の向上を図る

●まとめ

洗顔、整容、口腔ケア、爪切り・髭剃り、更衣など身だしなみを整えるということは、人としての日常生活の基本部分に当たり、身体の清潔を保つ、生活意欲の向上につながる大切なケアであると考えます。業務の慌ただしさや配置人数が少なかったりすると、その基本部分のケアも疎かになりがちである。所々で疎かになるとそれが普通へと繋がっていく。新人職員が多いことや、職員により気づきや意識の差が主な原因ではあるが、今後も言い続けることで統一されたケアを継続させ、日常生活動作のサポートを通してゲストの安心、安全な生活を目指していきたいと考える。業務の効率化と標準化に関しては、24時間シートのソフトを取り入れ、データを基にゲストがどういう生活を望んでいるかの聞き取り調査、その内容をデータ入力している段階である。次年度中に標準化を目指し効率を図るとともに、ゲスト一人一人の生活習慣を守り、生活の満足度を向上させていきたいと考える。

<経営部門>

①在籍率97%以上、在園率95%を維持する



介護度別年齢別等人数表 令和3年3月31日時点での在籍数

最高滞在期間：12年8か月 平均年齢：90.38歳

要介護度	令和元年度			
	合計人数	男性	女性	平均年齢
非該当	4	1	3	88
支援1	6	1	5	90.76
支援2	12	7	5	88.23
介護1	14	14	10	90.68
介護2	16	3	13	92.12
介護3	9	1	8	89.75
介護4	15	5	10	89.09
介護5	12	1	11	94.41
合計	87	33	54	
平均介護度	3.0	2.7	3.1	
最小年齢		68	81	
最高年齢		98	97	

●まとめ

充足率は90%という結果になり、目標を達成できなかった。ゲストの高齢化（平均年齢90歳）が進み、平均介護度は3.0と年々少しずつ上がってきており、亡くなる人数も特養並みになっている。また、前期の施設でお看取りさせていただいたゲストは、10名、入院者10名も過去最高であり、充足率を下げる結果となっている。しかし、入居に関しては、コロナ感染拡大の中、待機者数が少ないにも関わらず、随時、契約に結びついたことは好材料になった。その理由として、ショートステイさくらを開設したことで、入居に繋がり、ケアハウス大慈の知名度が居宅介護支援事業所のケアマネジャーに浸透してきたことが挙げられる。今年度、10名のゲストの看取りをさせていただいたが、まだまだ病院でお亡くなりになるケースもあり、今後は看取りケアを更に充実させご家族に浸透させていきたいと考える。

②人材確保と育成

A) 離職防止・定着対策の推進

- ・毎月の面談の実施

●まとめ

今年度、紹介会社SMS キャリアより10人の職員を採用したことで派遣職員との入れ替え、若しくは施設雇用への切り替えを行った。インドネシアの外国人実習生も2名入職した。リーダーによる毎月の面談等の効果もあり、今年度、離職率は大幅に下がった。しかし、まだまだ入職後間もない職員も多いことから離職防止・定着に力を入れていきたいと考える。

4. <看護部門>

“自分らしく生きる”を支える

①笑顔で生活できることを支える

②健康であることを支える

③満足できる最後を支えることができるよう、ゲストと家族を支える

●まとめ

1年を通してコロナ感染予防を実施しながら、ゲストとご家族が安心して穏やかな暮らしが継続できるようコミュニケーションを大切にし、各ゲストのニーズの理解とその人らしさの把握に努め健康管理を実施できた。看取りに関しては、コロナ感染予防に努めながら、ご家族・スタッフと話し合い、ご家族、ゲストに穏やかなお別れができるようにサポートを行った。

看取りケアでは、今年度10名のゲストが施設での看取りケアを実施し、ご家族から感謝のお言葉をいただいた。スタッフの介護負担軽減に対しては、スタンディングリフトを導入し、トイレ・入浴介助において大きく活用することができた。また、スライドボードも全フロアで導入でき、介助負担軽減に向けて取り組むことができた。

<年間業務>

月	項目	内容
4月	ゲスト定期健診	胸部×線 採血
6月	全職員定期健診	胸部×線 採血 検尿 検便 心電図 腰椎×線 (介護職員)
10月	全職員	インフルエンザ予防接種
11月	ゲスト	インフルエンザ予防接種
	ゲスト・介護職員定期健診	
随時	雇入時健診	胸部×線、採血

5. <理学療法科>

①ケアの質向上に資する取組の実施

②スタッフの介護負担軽減に対する取り組みの実施

●まとめ

機能訓練士2名体制となり、新規入居者のリハビリニーズが高いこともあり、機能訓練実施者数を最大60名まで増やすことができた。年度末に退居が増えたため、実施者数は減少したが、58名を維持できている。また、昨年と同様に移乗・移動方法に関する修正・提案、臥床時のポジショニング管理の改善は、各ゲスト担当スタッフを通じて実施することができた。

6. 《栄養科》

- ①おいしく、笑顔になれる食事の提供
- ②食事や行事食について、チェリッシュ委員会等にてスタッフ同士の意見交換を行う
- ③栄養面を考えた食事の提供とサポート方法の提案

●まとめ

嗜好調査結果より「満足している・ほぼ満足している」とお答えいただいたゲストが88%で、前回より20%以上満足度は増加し目標の75%を上回る結果となった。ティータイムの満足度は、51%のゲストしか満足されておられなかった。参加しないというゲストもおられたため、次年度はあり方や内容を検討していく必要がある。お食事会については「満足・やや満足と答えたゲストが54%と半数で、「普通」と答えた方が34%と一番多かった。行事として年2回（毎月1回1フロアのみ）行っているが、特別感をあまり感じていただけないようである。次年度はメニューの検討や提供方法、宣伝方法、雰囲気作り等、工夫をする必要がある。

<食事>

行事食（赤飯）	毎月1日
お食事会	フロア別に毎月1回

月	日	行事名	月	日	行事名
4月	21日	2.3.6F ティータイム	10月	7日	3F お食事会
	22日	5F バーベキュー		9日	6F お食事会
	28日	4.5F ティータイム		20日	2・3・6F ティータイム
5月	5日	子どもの日メニュー		27日	4・5F ティータイム
	10日	母の日メニュー	11月	10日	2F 秋のお茶会
	15日	3F お食事会		13日	2F お食事会
6月	8日	4F お食事会		19日	焼き芋パーティー
	21日	父の日メニュー	12月	15日	2・3・4F クリスマス会
	23日	たこ焼きパーティー		18日	5・6F クリスマス会
	26日	2F お食事会	1月	1日	正月メニュー
7月	1日	創立記念バイキング		7日	七草粥
	7日	七夕ゼリー		12日	鏡開き
	17日	5F お食事会		27日	4F お食事会
	22日	4F たこ焼きパーティー	2月	2日	節分
8月	8日	2F. 3F6F ティータイム		12日	5F お食事会
	18日	かき氷パーティー		14日	バレンタインメニュー
	25日	4F 5F ティータイム		23日	4・5F ティータイム
	26日	6F お食事会	3月	12日	握り寿司パーティー
9月	21日	敬老の日メニュー		25日	6F お食事会

7. 《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名		
月1回	法人運営会議	労働衛生	感染防止対策委員会
	看取り介護・褥瘡検討委員会	非常災害対策委員会	設備委員会

	チェリッシュ委員会 リスクマネジメント委員会	だいじな会議 行事委員会	サービス向上委員会 身体拘束等適正化委員会
月2回	リーダー会議	事業戦略会議	
随時	ケアカンファレンス		

実施日付	研修内容
4月～6月	新型コロナ感染につき中止
7月1日	事故対応・服薬管理・コロナ対策（17名）
9月～12月	虐待防止・身体拘束廃止研修（全職員）
11月	各フロアにてノロウイルス対応（26名）
11月25日	労働衛生（10名）その他職員（資料配布）
3月	各フロアにて、リスク管理

8. <環境整備計画>

大規模修繕計画を作成し、経年劣化による修繕と業務効率を意識した整備を実施する

- | | |
|------------------|--------------|
| ① PHS・Wi-Fiの環境整備 | } 令和3年度に持ち越し |
| ② 空調関係整備 | |
| ③ その他（整備関連工事） | |

9. <地域貢献事業>

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ① 社会貢献委員会が主催する行事 | } 新型コロナ感染予防対策のため
実施なし。 |
| ② ほっとかへんネットKOBE・西との連携 | |

10. <非常災害時訓練>

委員会を月1回開催した。新型コロナウイルス感染により、避難訓練など定期的にはできないときもあったが、全体での実施ができないときは資料を配り、職員間で周知させた。

11. <職員会議等>

頻度	会議名			
月1回	法人運営会議	経営会議	会計会議	だいじな会議
	部門会議	営業会議	リーダー会議	
随時	ケアカンファレンス			

<委員会活動> 月1回実施

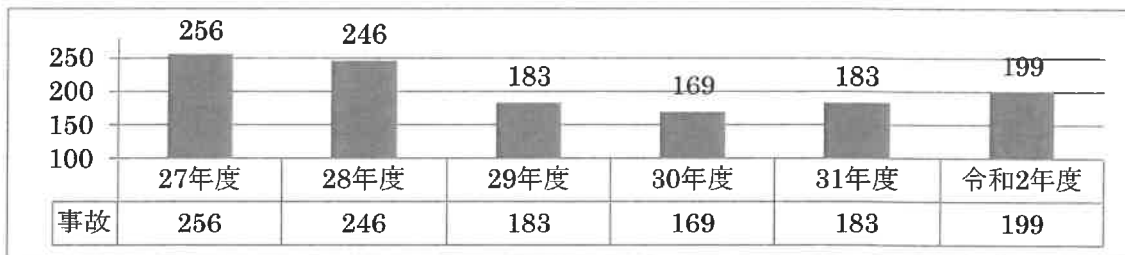
委員会名		
労働衛生委員会	チェリッシュ委員会	行事委員会
災害・設備委員会	感染防止対策・エコ節約委員会	リスクマネジメント委員会
サービス向上委員会	褥瘡検討委員会	身体拘束廃止委員会
事業戦略推進会議	社会貢献委員会	予算管理委員会

1 2. 《職員構成》

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
1名	1名	1名	3(1)名	2名
事務員	介護職員	介護職員 (パート)	機能回復訓練士	運転手
2名	7名	3名	1名	2名

1 3. 《リスクマネジメント報告》 事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

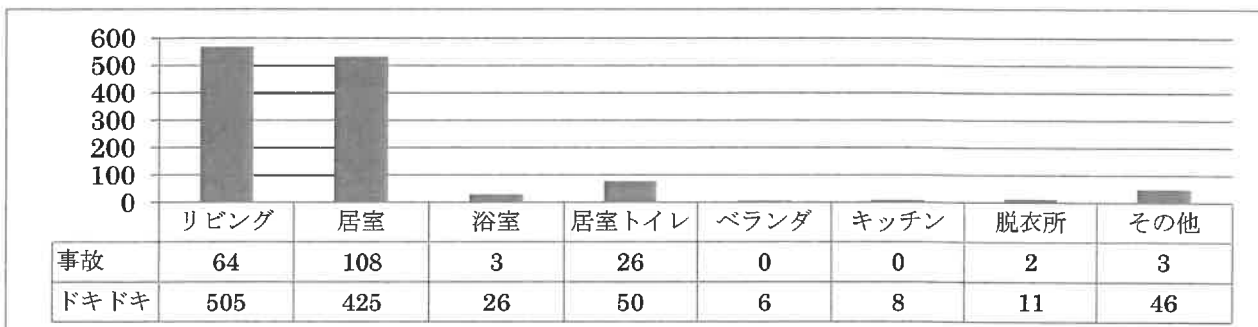


平成31年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
		1120件	183件		937件		1270件

○内訳

平成31年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	159件	28件	131件	2F	108件	20件	88件
3F	78件	46件	32件	3F	161件	32件	129件
4F	523件	30件	493件	4F	288件	34件	254件
5F	91件	25件	66件	5F	411件	55件	356件
6F	272件	53件	219件	6F	303件	58件	245件

②発生場所別件数



●まとめ

<分析結果>

- ①事故の場所として居室での事故、ドキドキが多い。
→要因として目が届きにくく見守りが困難。さらなる危険予測・予防策が必要である。
- ②事故の内容として転倒、滑落事故が多い。
→要因として平均介護度が上がっており、下肢筋力の低下や認知症等による理解力の低下が考えられる。
- ③誤薬事故は9件あり（前年度は14件）。
→内服準備や服薬方法の統一による取り組みにより減少したと考えられる。
- ④前年度はドキドキの暴言暴力が9件だったが、今年度は29件あった。
→要因の一つとして認知症の進行が考えられる。
- ⑤前年度に比べるとドキドキ件数が140件程増えている。事故は16件増えている。
→各階のドキドキに対する意識が高まっており、事故を未然に防ぐことにつながっているが、適切な対策・危険予測ができていない面もある。

<今年度の取り組み>

- ・各フロアの困難事例を持ち寄り、共有することにより、多角的な視点で物事を考え、上手くいくように取り組むことができた。

<来年度の取り組み>

- ・センサーマットの位置やクッションの当て方など統一したサポートができるように機能訓練指導員等のもと危険を予防できるように取り組んでいく。

1 4. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする

<報告件数>

平成 31 年度				令和 2 年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	42	2	40		13	2	11

●まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染のため、ご家族の面会等の制限があり、苦情・相談件数が大きく減少した。苦情と挙げたものは2件あり、いずれもご家族からの苦情であった。ゲストの前髪のかぶり方が小さな子供のようにされている、102歳の老衰死されたゲストへの介護内容への不信感から、個人情報開示を求めるというものであった。結果、開示請求は求められなかったが、コミュニケーションの取り方、伝え方など気遣いが必要であったと再認識した。その他、入居者同士のやりとりでの相談、職員間での連絡調整やご家族への報告など、もう少し配慮があったならと思うようなことが苦情・相談に繋がった。共通して言えるとは、職員間での気づきにムラがあり職員育成にも課題が残る。「自分だったら・・・、家族だったら・・・」どう感じるかという相手の立場になって考え、接遇を意識した丁寧な対応ができるようにしていきたい。

15. <<職員構成>>

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
1名	1名	1名	3(1)名	2名
事務員	介護職員	介護職員 (パート)	機能回復訓練士	運転手
2名	7名	3名	1名	2名

16. <<総括>>

充足率など目標は達成できなかったが、ショートステイさくらの知名度が上がってきたことにより、地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーと密に連携できるようになった。その結果、新規入居に繋がるケースが多かった。しかしながら、ケアハウスでも高齢化（平均年齢90.38歳）が進み、入居されるゲストも90歳代が多い。また、持病のため入院されるゲストも多く、稼働の維持が困難であった。当園でお看取りさせていただいたゲストは10名、平均介護度は3.0と年々上昇し、特養並みになってきている。そのことを踏まえると、今後は居宅介護支援事業所に頼るだけでなく、常時、入居待機者を確保する体制作り、看取りケアの充実、レクリエーションやリハビリ等、施設独自の特性を作っていかなければならないと考える。ケアに関しては、接遇を意識し丁寧な介護に努めているが、人員不足、業務が集中している時間帯やサポート量の多さ、ゲストの状況に対してゆとりのない対応をしていることなど、まだまだ課題は多い。次年度は、統一したケア・効率の良い業務ができるよう、24時間シートを活用できるようにしていきたい。新型コロナウイルス感染により、内外の研修参加が難しい状況ではあるが、ネット活用やフロア毎の勉強会など工夫し充実させていきたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈ショートステイさくら

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. <最終目標>

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

<令和2年度重点目標>

<ケア部門>

①基本に忠実な介護を目指す

- ・整容、整理整頓を行い、基本的なケア、当たり前のケアを徹底する
- ・ゲストに寄り添うケアが提供できる人材育成を行う

②ゲストのニーズを把握し、繰り返しの利用に繋げる

③レクリエーション活動の実施

●まとめ

上半期は人員不足の中、緊急入所や入退所が多い時も臨機応変にとはいかないまでも、一年を通してみると人員配置も安定して来ており、状況の変化に合わせて落ち着いて対応ができるようになった。接遇を意識した丁寧な対応に努めているが、今後も利用者一人一人の要望や状況、状態に合わせた柔軟な対応ができるようにしていきたい。また、次年度は、ご利用者のレクリエーションや楽しむことができるような行事などを定期的に行えるようにし、「ショートステイさくら」ならではの付加価値を高めていきたいと考える。人材育成においては、内外の研修などに参加できない状況ではあるが、工夫しながらできる限り職員の知識や技術の向上を図っていく。

<経営部門>

① 充足率の向上 (目標90%以上)

- ・空きベッドの公開、外部への連絡調整を行う
- ・ケアカンファレンスへ参加し、ケアマネジャーとの情報交換に努める

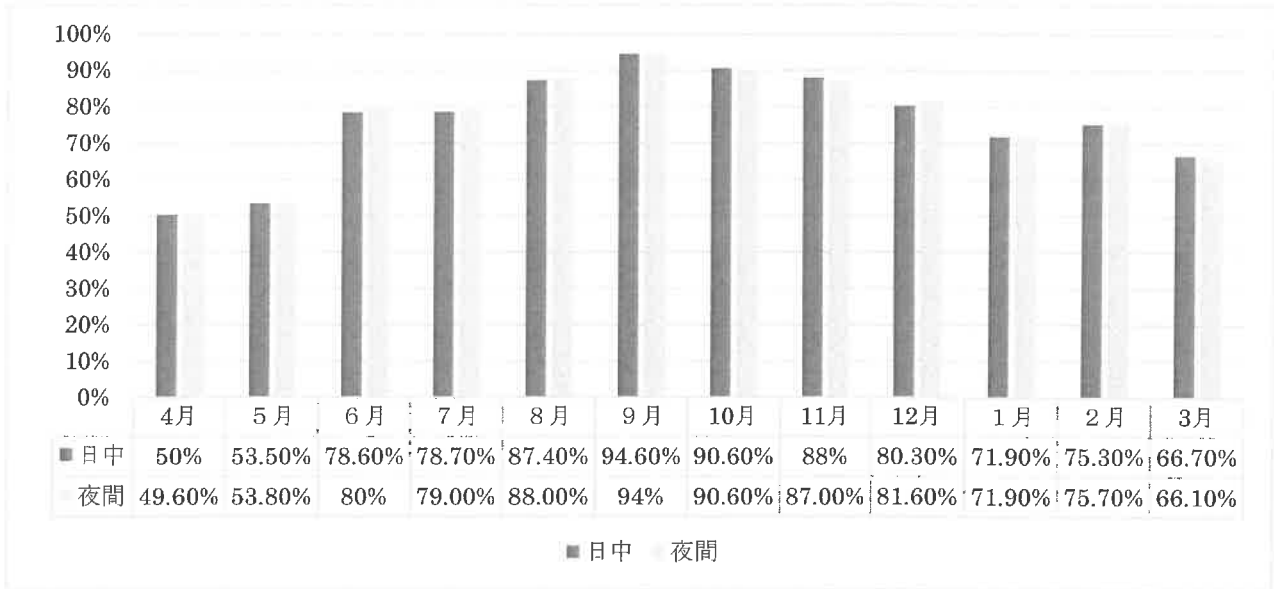
②定期的な営業活動の実施

●まとめ

新型コロナウイルス感染に伴う緊急事態宣言により、キャンセルや新規受け入れができなくなり、また、定期利用のゲストが特養等へ入所、入院等によりになったケースもあり、充足率90%を大きく下回った。しかし、徐々にリピーターも増えてきており、知名度も上がって

きている。キャンセルが出た場合の補充の対応としてラインワークスを利用したり、空所情報をFAXでお知らせしたりしているが、まだまだ不十分と考える。いつまで続くか分からないコロナ感染、いかに大慈ショートステイさくらの価値観を確保し、新規利用やリピーターを増やしていくかを早急に考えていきたい。ショートの人員配置も落ち着いており、緊急入所にも臨機応変に対応できるようになった。更に今後は、ご家族や居宅介護支援事業所との連携を深め、目標を達成していきたい。

●充足率



- 3. 《環境整備計画》
 - 4. 《地域貢献事業》
 - 5. 《職員会議等》
 - 6. 《月行事・行事食・年間行事》
 - 7. 《職員構成》
- } ケアハウス大慈に準ずる

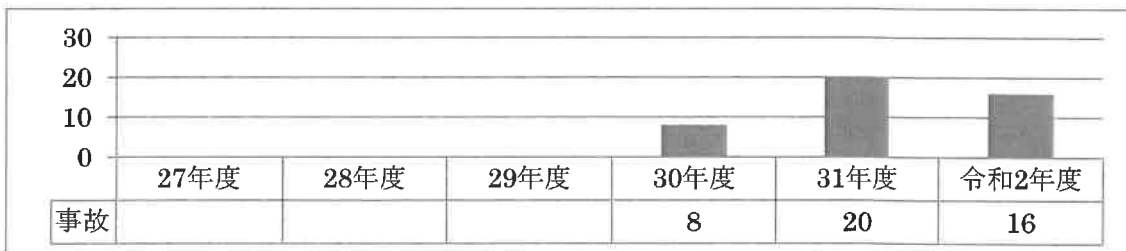
8. 《リスクマネジメント報告》

●まとめ

《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



平成31年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	83件	20件	63件		73件	16件	57件

②発生場所別件数



② まとめ

前年度に比べるとショートステイを利用される方が増えている。今年度は利用される方の性格や行動等の理解に努め、事故を未然に防げるように取り組んだ。結果、事故件数は減少している。しかし、転倒や転落等の事故は依然、減少していない。引き続き、ご本人はもちろん、ご家族・担当ケアマネジャーからの情報収集を密に行い、安全・安心な環境を整えていけるように取り組んでいく。

9. 《苦情・相談》

該当なし

10. 《職員配置》

施設長	副施設長	生活相談員	看護職員 (パート)	管理栄養士
1名	1名	1名	4(2)名	2名
事務員	介護職員 (正職)	介護職員 (パート)	機能回復 訓練士	運転手
2名	8名	1名	1名	2名

11. 《総括》

新規利用・リピーターが定着しつつあるところで、新型コロナウイルス感染の拡大などで新規利用中止、キャンセル等により、稼働率を下げた。また、定期利用者の特養入所、入院等も響いている。しかし、居宅介護支援事業所との連携が良くなったことで利用数は順調に伸びてきていると考える。ロング利用半数を定着させ、空所をいかに埋めていくか、また、ケアハウス大慈の介護内容の利点を生かし、尚且つ、行事やレクリエーションを活発に取り入れていくかが大きな課題だと考える。リスクマネジメントでは転倒事故が多く、最優先課題の一つである。当たり前のことであっても職員同士で声を掛け合い、再確認しながら支援に当たることをチームで意識付けしていく必要がある。事故後の要因分析や対策については、申し送りやミーティングなどを活用し早急に対処できるようにしていきたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

居宅介護支援事業所 大慈園

1. <基本方針>

- ①可能な限り住み慣れた地域においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう支援する
- ②公正中立な立場で、自己決定ができるように援助する
- ③質の高いケアマネジメントの推進
- ④医療と介護の連携強化

2. <最終目標>

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく。
- ・施設利用となっても家族の思いを受け止め、決断に寄り添い精神的なサポートを行う。

3. <実績>

請求実績 1533件 (昨年度より279件増)

月平均 127.5件 (昨年度より22%増)

月別・介護度別請求内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1・2	67	71	81	80	79	77	79	79	79	80	78	83	933
要介護3・4・5	41	46	44	45	44	44	46	52	56	60	62	60	600
合計	108	117	125	125	123	121	125	131	135	140	140	143	1533

<実績まとめ>

年度当初より紹介や来所相談等、要介護認定者を積極的に受け入れ年度内で新規利用者84件(月平均7件)獲得出来た。新型コロナウイルス感染防止の為、外出や地域交流の機会が減り体力低下や、認知症の進行等から要介護認定を受ける利用者が増加した事も新規受け入れ増の要因の一つと考えられる。上記理由からサービス利用を控える利用者もあつたがサービス利用が無い利用者も適切な支援等の実績があれば居宅介護支援費の請求が認められたことも件数が維持できた要因と考える。

介護度別では要介護1・2が61%(前年62%)、要介護3・4・5が39%(前年38%)と年度を通じての割合は昨年度とほぼ同率だったが12月～2月にかけては要介護3・4・5が40%を超え、重度者を在宅で介護する割合が増えていた。

今年度は業務効率化に向けた意見交換を毎月実施。更新申請一括郵送、新規利用者に対し必要書類完備したファイルの準備、共有フォルダによる議事録共有、印鑑やその他事務用品の配置場所変更し無駄な動きの削減、転送携帯をあんすこと居宅で分ける事で利用者対応の効率化、固定電話の番号登録行い手間削減、グーグルカレンダー活用し利用者宅訪問予定の共有等多く

の取り組みを実施し成果を得た。ほのぼのサーバー共有のメリットを生かして、実績取り込み行うこと実績入力の手間削減と、ラインワークスが開始となった事で事業所間のファックスのやり取りが減りペーパーレス化にもつながった。これら取り組みが業務の効率化につながり、結果的に新規受け入れ増にも貢献したと評価する。

①介護支援専門員としての資質の向上

- A) ケアプランの質の向上
- B) 後進の育成

《資質の向上まとめ》

今年度は各自がテーマを決めた内容について学び、その内容を事業所内でOFF-JTとして発表する方法で7回（運営基準、介護支援専門員の倫理、地域のインフォーマルサービス、ACP、訪問介護サービス、ケアマネジメントプロセス、報酬改定勉強会）実施した。自らが学んだことを発表する場を持った事で、人に説明する事の学びにもつながった。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参集型研修の多くが中止となったが、下半期からはZOOMを活用してオンラインでの研修が開催され参加出来た。

介護支援専門員実務研修「見学実習」はコロナ感染拡大防止の為、実習生の前期研修に遅れたが出た事から当初予定していた時期より半年遅れて10月に受け入れ実施。コロナの影響で利用者宅訪問は原則中止。説明にて見学実習とした。

特定事業所加算算定要件である、他事業所と連携での事例検討会は、年2回（7月と2月）を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から7月中止、2月開催予定分を3月に変更し開催した。

②連携の強化

- A) 医療と介護の連携（在宅医・地域連携との情報共有、多職種交流会参加）
- B) 西神南あんしんすこやかセンター及び圏域外の地域包括支援センターとの連携
- C) 地域との連携と地域貢献行事の参加
- D) 事業所内の連携

《連携についてまとめ》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、参集での多職種連携研修、地域行事、病院での面会も制限（または禁止）が多かった。年間通じて退院退所加算15件、入院加算22件算定したが、特に病院での退院前カンファレンスは開催されなかった事もあり連携を取ったものの算定につながらなかったケースもあった。

年度末には西神南あんしんすこやかセンター主催の事例検討会に参加。カスタマーハラスメントによる支援困難ケースの検討を行った。

③認定調査委託業務

●月別認定調査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	8	5	35	26	44	35	20	38	34	33	30	38	346
電話	24	32	5	0	0	0	0	0	0	1	9	2	73

《認定調査委託業務まとめ》

緊急事態宣言発令に伴い、4月～6月にかけて訪問での認定調査は原則中止。1月～3月は利用者が訪問調査を拒否した場合のみ電話聴き取りによる認定期間の延長との、特例措置などから

認定調査委託料収入は大幅に減少となった。認定調査特記事項に関する市からの問い合わせ内容を共有、伝達等を目的とした認定調査の会議は緊急事態宣言等の状況から6回開催予定だったが、今年度は4回となった。

④防災・減災への取り組み

災害時非難場所シートは災害時の安否確認の資料として活用。年1回更新継続している。業務効率化の観点から、ほのぼの台帳に記載、印刷する事での代用を次年度の検討課題とした。令和3年度の報酬改定にて感染症及び災害時の事業継続計画の作成及び訓練を行うことが運営基準に追加された為、次年度の計画作成と訓練を予定している。

5. 苦情・相談結果報告

令和2年度				平成31年度（令和1年度）			
報告件数	苦情	相談	合計	報告件数	苦情	相談	合計
	1件	7件	8件		0件	12件	12件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3	0	1
苦情	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
相談	4	0	2	0	1	0	0
苦情	0	0	0	1	0	0	0

《苦情まとめ》

昨年に比べ報告件数は4件減少して8件の報告であった。内容は、連絡ができてなかった事、認識・知識不足等からケアマネジャーに関する苦情・相談が5件、認定調査に関する相談が2件、同法人ショートへの対応に関する相談が1件であった。上記内、管理者が対応したケースは高額介護サービス費に関する苦情であった。当該ケースについては利用者家族へ説明及び謝罪を行い、その内容について事業所内で情報を共有した。他相談のケースは、週1回の伝達会議の場で共有を行った。

認定調査に関する苦情は、調査時の調査員の言動に関するものが1件、認定結果に対する不服が1件だった。

6. 年間計画実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
見学実習受け入れ							○					
避難リスト更新			○	○								
地蔵盆					中止							
他法人との事例検討				中止							延期	○

※伝達会議（週1回）、調査員会議（隔月）、研修・地域ケア会議・地域行事には随時参加
事業所内勉強会は年間計画表に沿って実施

《総括》

今年度は、昨年度比請求件数20%増となった。業務効率化への取り組みと、新規獲得を積極的に行ったことの成果と評価する。新型コロナの影響で上半期は予定していた参集型の研修や会議の中止が続き、学びや多職種連携の場が減少した。しかし、下半期には、ZOOM利用での研修や会議が普及、ラインワークスの導入、グーグルカレンダー活用等、IT活用が進んだことは結果的に業務効率化につながったと考える。

職員においては、三蜜回避、手洗い、うがいなど職員自身感染防止対策の意識を持ち、事業所内からは感染者を出さず業務継続できたことも収益維持の要因の一つと考える。

緊急事態宣言発令後、一定期間一律認定調査が中止。12カ月延長という特例的な措置となった影響で認定調査委託料収入の減収となった。上記特例措置の影響で、次年度は調査対象者の爆発的な増加が見込まれている事や、収益向上により100%を超える請求実績の状況から4月からケアマネジャー増員となった。新規採用のケアマネジャーは在宅の経験がなく、認定調査兼務である為、充足率増には時間を要するが、事業所全体で指導・育成していきたい。

令和2年度 事業報告書（案）

大慈幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《令和2年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→子どもが自ら活動できるよう、検討を重ねた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
→感染症対策に伴う保育の中で、工夫しながら環境を整えることができた。
- ③本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。
→感染症対策の中で、直接会う機会は減少したが、リモートでのミーティング等を行い連携を図ることができた。
- ④特色・サービスの視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深めた。
 - ・随時、ホームページのお知らせの更新を行った。
 - ・地域の施設・学校・関係者に園だよりなどを配布し、園を知っていただくよう努めた。
 - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方にも知っていただいた。
 - ・新型コロナウイルスの影響で、地域の方や在園児以外の子育て世帯の方が園に来ていただく機会を持つことができなかった。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講した。
 - ・職員の資質向上のため、職員会議毎に研修・伝達講習を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。（ICTを導入し、効率化を図る）
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦特別な配慮・支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチをする。
 - ・すこやか対象児だけでなく、個別に配慮の必要な子どもの対応も一人一人行った。
 - ・虐待の恐れのある子どもについては、区・こども家庭センターと密に連携を取り、対応した。
 - ・保護者の在宅の時間が増え、家庭的に不安定になる世帯もあった。それに伴い、家庭へのアプローチ、こども家庭センターや区保健師との連携も図った。
- ⑧子育てサロン、外国にルーツを持つ子どものための学習教室を通して、地域への支援を深める。
→感染症対策の為、子育てサロンはすべて中止にした。外国にルーツをもつ子どものための学習教室は、学習支援とともに、参加児童の居場所づくりにもなっている。今後も引き続き、取り組んでいく。
- ⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→部門全体のリスクマネジメントも行き、想定内を増やすよう努めた。
- ⑩1号に移行する大慈あい小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
→1月以降できる限り、本園で保育を行い、子どもが戸惑わないように配慮した。

3. <<行事>>

年間行事

月	行事名
4月	入園式（規模縮小対面式）
5月	春の遠足（5歳児）中止 運動会（10月に5歳児のみで行った）
6月	お楽しみ会（中止） 歯科教育指導（中止）
7月	全園児プール開き（規模縮小水遊び）七夕祭り ワークキャンプ受け入れ（中止）
8月	地蔵盆（園児のみ）
9月	お泊り保育（5歳児）（規模縮小1日のみ）お楽しみ会
10月	秋の遠足（全園児）（規模縮小お散歩）
11月	作品展 参観ウィーク（中止） 津波避難訓練
12月	音楽 day（中止） クリスマス会 おもちつき（中止）
1月	よいこの集い（中止） 六甲山スキー遠足（5歳児）（中止） お楽しみ会
2月	発表会（5歳児のみDVD配布 0～4歳児写真配布）
3月	お別れ遠足（規模縮小お散歩）お別れ会 卒園式 ピドスコープ撮影

月間行事（月1回）

お誕生日会（子どものみ） 子育て支援事業（土曜日の園見学のみ）

防災訓練 防犯訓練

その他

- ・盲学校幼稚園部児童との交流 週1回（中止）
- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回（中止）
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回（中止）

4. <<保健衛生計画>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児4月、11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	7月・11月 年2回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	5月・2月 年2回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	登録衛生検査所有研により月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年4回
エアコン・換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

5. 《令和2年度在籍児一覧表》（ ）は分園

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	23 (8)	25 (9)	23 (9)	132 (53)	116%
5月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	23 (8)	25 (9)	23 (9)	132 (53)	116%
6月	9 (9)	26 (9)	25 (9)	24 (9)	25 (9)	23 (9)	132 (54)	116%
7月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
8月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
9月	9 (9)	25 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	130 (54)	115%
10月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
11月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
12月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
1月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
2月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
3月	9 (9)	26 (9)	26 (9)	22 (9)	25 (9)	23 (9)	131 (54)	116%
合計	108 (108)	311 (108)	311 (108)	268 (106)	300 (108)	276 (108)	1574 (646)	116%

1号認定こども

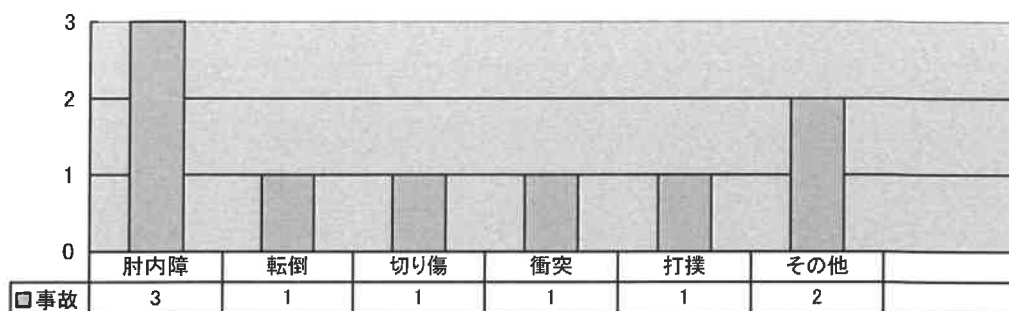
	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	6	5	7	18	120%
5月	6	5	7	18	120%
6月	6	5	7	18	120%
7月	6	5	7	18	120%
8月	6	5	7	18	120%
9月	6	5	7	18	120%
10月	6	5	7	18	120%
11月	6	5	7	18	120%
12月	6	5	7	18	120%
1月	6	5	7	18	120%
2月	6	5	7	18	120%
3月	6	5	7	18	120%
合計	72	60	84	216	120%

6. 《リスクマネジメント報告》 本園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 9件

平成31年度 事故 8件



① 事故発生内容

保育者が手を引いた際の脱臼、午睡中の寝返りの際の脱臼があった。階段を走って上ろうとした際に滑って転倒し、前歯の上歯茎を切り、出血した。ハサミで友だちと二人でテープを切ろうとした際に誤って指を切り、ホッチキスで4針止めた。腕の上に友だちが転倒してきて、打撲した。鉄棒でおでこを打ち、たんこぶができた。帰宅後、いつもと違う様子だったため、母と脳外科を受診。脳には異常はなかったが内出血し、顔にアザができた。その他では下駄が目当たり眼球の白い部分が赤くなったことや午睡中に布団の紐に指を巻き付け圧迫痕ができたことがあった。

② まとめ

外での事故が多かった。職員の配置を見直し、安全に遊べるようにしていく。乳児は腕が抜けやすく、すぐに脱臼してしまうため手を引く際には十分に気を付けていきたい。また、階段の上り下りや室内での過ごし方、道具の使い方等を子どもたちと確認し、約束を守って過ごせるようにしていく。

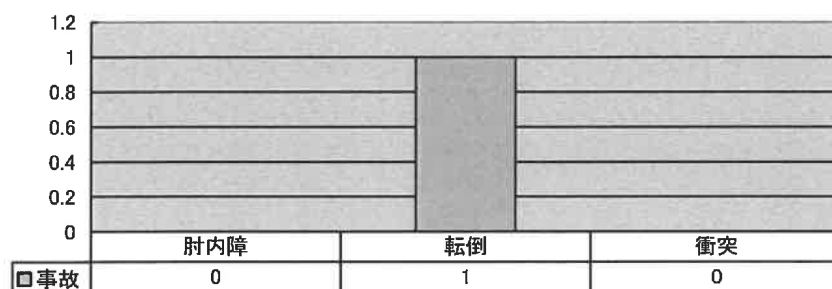
7. 《リスクマネジメント報告》 とも分園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度	事故	1件
平成31年度	事故	2件

① 事故発生内容

→バランスを崩し、転倒。その際にぼっとん落としのタッパーの淵で鼻の穴の付け根を切った。病院を受診し、4針縫った。



② まとめ

転倒時、手をついて身を守ることが出来ない子どもが増えてきている。日々の活動の中で体幹を鍛えたり、手をつくことを取り入れ、身を守る術を伝えていきたい。

8. << 苦情・相談結果報告 >>

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・7件（本園4件 分園3件）

令和2年度			平成31年度		
報告件数	合計件数	苦情	報告件数	合計件数	苦情
	7件	7件		11件	8件
		相談 0件			相談 3件

○まとめ

保護者とのコミュニケーション不足による苦情が数件あった。日頃から保護者との何気ない会話を大切にし、信頼関係を深めていくことの大切さを感じた。

また、保護者への伝達ミスによる苦情があった。全員でどのように伝達をするのか等の内容の一致を行い、確実に、正確に伝言をしていけるようにする。

精神的に不安定な保護者には対応の担当を決めて関わった。保護者の気持ちに寄り添いながら話を十分に聞くようにした。

9. << 総括 >>

新型コロナウイルス感染対策を行いながらの保育で、影響が多くあった。そのような状況下で、子どもの育ちを支える事、援助する事に難しさを感じた。

また、社会全体の影響に伴い、家庭、保護者も不安定になっている場面も多くあった。虐待の恐れ、夫婦間での問題による配慮を要するケース等、これまで以上に家庭支援、関係諸機関との連携を求められる1年となった。

令和3年度も引き続き、社会全体の影響が出る中で、園としても職員全員で力を合わせ保育をしていく。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. <基本方針>

- ①安全を第一に考え、子どもが安心して元気に活動できるよう工夫し努力した。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努めた。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図った。

2. <令和2年度報告>

- ①教育・保育理念をよく理解し、主体性を育むよう努める。
 - ・子どもの発達段階をよく理解し、丁寧な関わりに努め、子どもの想いを共有した。
 - ・子どもが自ら活動できるよう環境を検討し、工夫した。
- ②異年齢の関わりを深める。
 - 活動内容により関わりを持てるようにした。
- ③子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
 - 感染対策に伴う保育の中で、工夫しながら環境を整えた。
- ④子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を早く覚えていただき、親近感を持っていただけるようにした。
 - ・小学校や地域の関係者に園だよりを配布して、園の活動内容を知って頂ける様に努めた。
 - ・要支援家庭に対して、区の保健師、こども家庭センターと情報を共有し、子どもの様子や家庭の状況など話し合い、変化を見逃さないようにした。
 - ・すこやか対象児だけでなく、個別に配慮が必要な子どもの対応もおこなった。
 - ・新型コロナウイルス感染の影響で、一時保育や園庭開放等、在園児以外の子育て世帯の方に園に来ていただくことができなかった。
- ⑤資質向上のため、職場内、職場外研修を行い全職員で共通理解をする。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう、可能な研修に参加した。
 - ・部門内でオンライン研修を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。
 - ・保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦行事に地域の方をご招待したり、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続ける。
 - ・感染症対策のため、行事などへの招待ができず、交流を持つことができなかった。
 - ・市民花壇の草花に、年長児と共に水やりをして草花への興味関心を育てた。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
 - ・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑨1号に移行する大慈あい小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
 - ・卒園式終了後以降、あい小規模保育園からの受け入れを行い慣れるようにした。

3. 《行事》

※年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止、説明会）
5月	春の遠足（いちご狩り中止） 防災フェア（中止） 交通安全教室（中止）
6月	食育フェア・お楽しみ会・歯科教育指導（全て中止）
7月	プール開き（水あそび）・プラネタリウム・夏まつり（全て中止） 七夕まつり
8月	小学校プール・お年寄りとの交流会・ワークキャンプ受け入れ（全て中止）
9月	お泊り保育（夜までの特別保育、泊りはなし）
10月	運動会（5歳児のみ） 秋の遠足（近隣お散歩） 兵庫区ふれあい会（中止）
11月	焼きいも大会 作品展 参観ウィーク（中止） 兵庫区なかよし会（中止）
12月	ドレミコンサート（中止） クリスマス会
1月	おもちつき・そりあそび遠足・よいこの集い（全て中止）
2月	豆まき 生活発表会（0～4歳児写真掲示・配布 5歳児DVD配布）
3月	ひな祭り お別れ遠足（近隣お散歩） お別れ会 卒園式

※月間行事（月1回）

お誕生日会 発育測定 防災訓練 防犯訓練

その他

- ・全園児避難訓練（火災）…月1回
（地震・津波・SIDS・水難事故・痙攣など）… いずれか月1回
- ・消防士の指導による避難訓練と消火訓練 … 年1回（中止）
- ・防犯訓練（警察の方による、不審者侵入による防犯訓練）… 年1回（中止）
（保育者が不審者になり、園全体で防犯訓練）… 年4回（2回）

※卒園式は、2部に分けて行った。

4. 《保健衛生報告》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児6月・11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月・11月 年2回（中止）→園児10月
園児耳鼻科健診	6月 年1回 → 7月
園児眼科健診	6月 年1回 → 11月
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・全職員検便	登録衛生検査所有研により月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップ清掃	アーテックサーキュレーションにより年5回
エアコン・換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

5. 《令和2年度在籍児一覧表》

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	6	18	18	20	20	19	101	112%
5月	9	17	18	20	20	19	103	114%
6月	9	17	18	20	20	18	102	113%
7月	9	17	18	20	20	18	102	113%
8月	9	17	18	20	20	18	102	113%
9月	9	18	18	20	20	18	103	114%
10月	9	18	18	20	20	18	103	114%
11月	9	18	18	20	20	18	103	114%
12月	9	18	18	20	20	18	103	114%
1月	9	18	18	20	20	18	103	114%
2月	9	18	18	20	20	18	103	114%
3月	9	18	18	20	20	18	103	114%
合計	105	212	216	240	240	218	1231	113%

1号認定こども

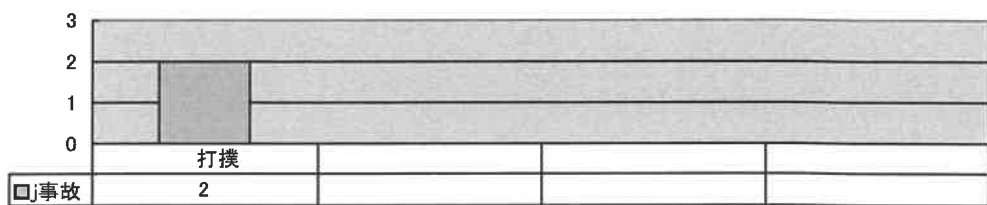
	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	3	3	3	9	100%
5月	3	3	3	9	100%
6月	3	3	3	9	100%
7月	3	3	3	9	100%
8月	3	3	3	9	100%
9月	3	3	3	9	100%
10月	3	3	3	9	100%
11月	3	3	3	9	100%
12月	3	3	3	9	100%
1月	3	3	3	9	100%
2月	3	3	3	9	100%
3月	3	3	3	9	100%
合計	36	36	36	108	100%

6. 《リスクマネジメント》

医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 2件

平成31年度 事故 4件



○まとめ

コンクリートの面にゴムチップを張ったこともあり、事故件数は少なくなった。
1件は砂場で転んで手の平を打ち、もう1件は友だちが振り上げた羽子板で前歯を打撲しどちらも特に治療する必要もなく様子を見ることになり、そのまま治癒した。
羽子板とのぶつかりは、予測される行為であるので、職員間で間隔の取り方、場所の設定仕方など考え、事故が防げるように周知した。

7. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・3件

令和2年度			平成31年度				
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	3件	1件	2件		4件	2件	2件

○まとめ

子どもの紙パンツの履かせ忘れは、保育者の確認不足に他ならず、原因を話し合い今後の対応を確認し他の職員にも周知していく。
また、子どもから保護者に伝えたことが保護者に不信感を抱かせてしまったので、その時の事情を詳しく説明をしてわかっていただいた。また、子どもにとっては嫌なことだったので、その思いにも寄り添い話をしていった。
今後も子どもの想いを汲み取り、保護者とも信頼関係を築いていきたい。-

8. 《総括》

新型コロナウイルス感染対策を行いながら保育をしなければならない1年になり、子どもたちを守ること、育ちを支えていくこと、保護者に園の取り組みを理解していただくことなどの難しさを強く感じた。
令和3年度も引き続き社会の状況を踏まえながら、部門内で話し合い、職員全員で力を合わせ共通理解の下、ひとつひとつ乗り越えていきたいと思う。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈ほまれ幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽し、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《令和2年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→子どもの発達段階を勉強し、主体的に遊べるように工夫した。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整えた。
→新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、子どもの主体性を育むよう、子どものつぶやきや発見を大切に保育環境を整えた。
- ③大慈あい小規模保育園との連携を図り、豊かな保育が行えるようにする。
→2歳児卒園後、園が変わっても出来る限り子どもの負担にならないように、職員間で情報共有を図った。
- ④特色や事業内容の視覚化を進める。
→・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただいた。
・ホームページの更新をし、保育の発信を図った。
・地域に園だよりを配布して、園のことを知っていただくよう努めた。
・園開放、子育てひろばは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
→・キャリアパス要件を満たすようオンライン研修を受講した。
・職員会議毎に研修を行った。
・部門全体でオンライン研修を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。
→新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、受け入れを中止した。
- ⑧子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。
→新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。
- ⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保した。
→部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。

3. 《行事》

年間行事

月	行事名
4月	入園式(入園の日とし、時間差をつけての説明会)
5月	5歳児春の遠足(中止) 運動会(10月5歳児のみ) お楽しみ会(中止)
6月	歯科指導(中止) 防犯教室(中止) お楽しみ会(中止)
7月	プール遊び(水遊びに変更) 七夕まつり ワークキャンプ受け入れ(中止)
8月	小学校プール遊び(中止)

9月	5歳児お泊り保育（夜までの特別な保育に変更）
10月	全園児秋の遠足（近隣にお散歩）
11月	作品展 津波訓練 参観ウィーク（中止）
12月	音楽会（中止） クリスマス会
1月	津波訓練 おもちつき（中止） 5歳児そり遊び遠足（中止） よいこの集い（中止）
2月	発表会（0歳児～4歳児 写真掲示 5歳児 DVD 配布）
3月	全園児お別れ遠足（近隣にお散歩） お別れ会 卒園式

月間行事（月1回）

お誕生日会（園児のみ） 防災訓練 防犯訓練（4月5月は中止）

その他

- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回（中止）
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回（中止）

4. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児7月12月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	5月・11月 年2回 10月 年1回に変更
園児耳鼻科健診	6月・11月 年2回 10月 年1回に変更
園児眼科健診	11月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	登録衛生検査所有研により月1回 6月～10月 月2回
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年4回
エアコン・換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

5. 《令和2年度在籍児一覧表》

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9	13	13	14	11	11	71	118%
5月	9	13	13	14	11	11	71	118%
6月	9	13	13	14	11	10	70	116%
7月	9	13	13	14	11	10	70	116%
8月	9	13	13	14	11	10	70	116%
9月	9	13	13	14	11	11	71	118%
10月	9	13	13	14	11	11	71	118%
11月	9	13	13	14	11	11	71	118%
12月	9	13	13	14	11	11	71	118%
1月	9	13	13	14	11	11	71	118%
2月	9	13	13	14	11	11	71	118%

3月	9	13	13	14	11	11	71	118%
合計	108	156	156	168	132	129	849	117%

1号認定こども

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	5	7	5	17	113%
5月	5	6	5	16	106%
6月	5	6	5	16	106%
7月	5	6	5	16	106%
8月	5	6	5	16	106%
9月	5	6	5	16	106%
10月	5	6	5	16	106%
11月	5	6	5	16	106%
12月	5	6	5	16	106%
1月	5	6	5	16	106%
12月	5	6	5	16	106%
3月	5	6	5	16	106%
合計	60	73	60	193	107%

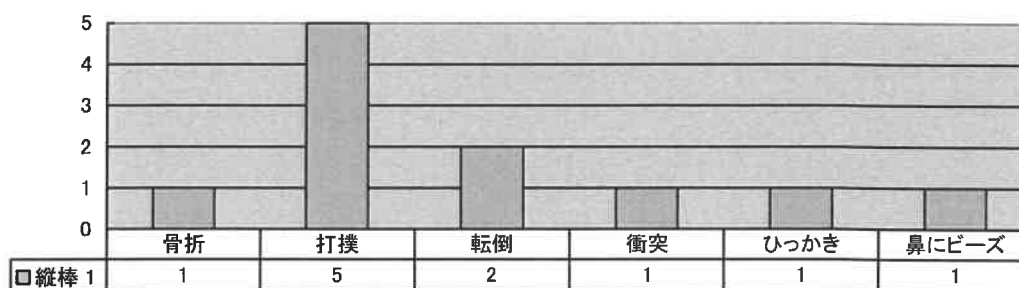
6. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 11件

平成31年度 事故 5件

① 事故発生内容



② まとめ

右肘の剥離骨折が1件あった。室内のボルタリングから飛び降り、右肘を強く打った。床にはクッション性の高いマットを敷いていたが、骨折に至ってしまった。お約束の確認・ボルタリングをする時間帯などを再検討し、再発防止対策を図った。

7. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・14件

令和2年度			平成31年度				
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	14件	11件	3件		2件	1件	1件

○まとめ

保育者の配慮不足、計画不足が原因だと考えられる苦情が概ねだった。
 緊急事態宣言や特別保育が解除され、新年度が始まっても余り登園されることがなく、園との信頼関係が築けていない状況だったのも原因の一つと考えられる。
 職員の資質向上に努めることが非常に重要だと考える。

8. 《総括》

年度初めから新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じての保育になった。
 誰もが初めてのことで困惑することが多かった。
 特に新入園児にとっては、不安が多かったのではないかとと思われる。
 しかし、全ての大人がマスクを着用しながらも日々の関りを重ねていくうちに愛着関係が築けた。
 子どもは限られた環境の中、楽しく遊び、想像力を働かせ工夫しながら活動していた。
 今までにない新たな形の日常生活や行事が繰り返され、時代が大きく変わったのだと実感した。
 主体性を育み、人間力を培うことの重要性が益々強くなったと考える。
 また、特別な配慮や支援の必要な子ども、子育て家庭への支援など、今まで以上に必要になってくると思われるので、保育者の専門性を高め、視野を広く持って教育・保育にあたりたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈あい小規模保育園

1. 《基本方針》

- ①子ども・保護者一人一人をよく把握し、寄り添った保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《令和2年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
→子どもの発達段階に合った室内環境を整え、自ら関わり遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にす。
→園での様子をこまめに伝え、成長した姿を共有する中で家庭との連携が持てるようにした。
- ③大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
→新型コロナウイルス感染拡大防止により交流をすることができなかったが、2歳児が法人内の園に移行する時は職員間で子どもの姿を伝え連携を図った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
→毎月の園だよりや職員紹介を配布し、関係を深めた。
→園外に行く時に、地域の方に挨拶をし、積極的に関わった。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・職員会議毎に研修を行った。
 - ・部門合同でオンライン研修を行った。
- ⑥日頃より、法人内園・児童館に行き、交流を深める。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止により法人内園に行くことはできなかった。
 - ・一般参加のない日に児童館に行き、園とは違う環境で遊ぶことができた。
- ⑦人材確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→園だけではなく、部門全体の情報を共有し、想定内を増やすよう努めた。

3. 《行事計画》

月	行事
4月	入園式(入園の日として説明会だけ行った)
5月	運動会(中止)、個人懇談(中止)
7月	七夕まつり
10月	遠足ごっこ
11月	個人懇談(希望者のみ)
12月	クリスマス会
1月	おもちつき(中止)
2月	豆まき
3月	お別れ会・お別れ遠足・茶話会(中止)

月間行事

- ・お誕生日会（月1回）あい小規模保育園内で、子どものみで行った
- ・発育測定
- ・防災訓練

その他

- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検を年2回行う。

4. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月（10月に延期）・年1回
園児耳鼻科健診	6月（10月に延期）・年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育士全員検便	登録衛生検査所有研により月1回以上
エアコン清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

5. 《令和2年度在籍児一覧表》

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	2	6	9	18	94%
5月	2	6	9	18	94%
6月	2	6	9	18	94%
7月	3	6	9	18	100%
8月	3	6	9	18	100%
9月	3	6	9	18	100%
10月	3	6	9	18	100%
11月	3	6	9	18	100%
12月	3	6	9	18	100%
1月	3	6	9	18	100%
2月	3	6	9	18	100%
3月	3	6	9	18	100%
合計	33	72	108	216	100%

6. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 3件

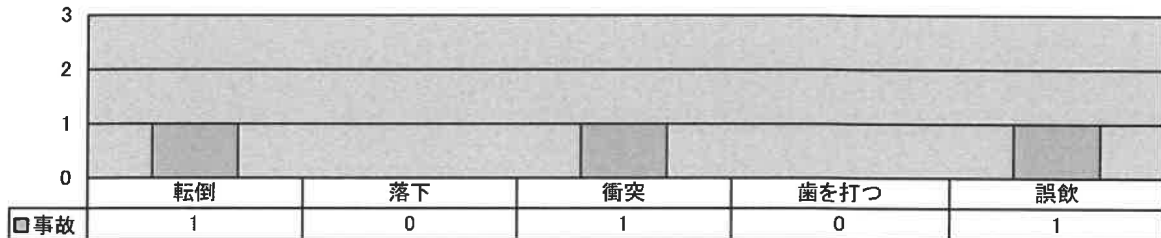
平成31年度 事故 0件

① 事故発生内容

1件は新型コロナウイルスにより外に出る機会が減り、室内で走ることが多くあった中で棚で頭をぶつけた。

2件目は子ども自身がバランスを崩して口の中の上唇小帯を切っている。血が多めにでていたため病院に行った。

3件目は卵アレルギーの児童に卵の入っているおやつを配膳した。新人の職員がアレルギー児対応の確認が出来ていない中で配膳をしたために起こった。



② まとめ

大きなけがには至らなかったが、一步間違えば重大な事故に繋がる案件であった。室内での約束ごとや子どもへの対応など、共通理解ができていないことや連携不足が招いた事故であるため、職員同士よく話し合い連携をとっていく。

7. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・0件

	令和2年度			平成31年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
報告件数	0件	0件	0件	報告件数	2件	2件	0件

8. 《総括》

新型コロナウイルス感染対策により例年行っていた事が出来ず、子どもの生活環境や遊びの空間を見直す必要があった。その限られた保育環境の中でも、保育者と愛着関係を築き保育園生活を楽しく過ごしていた。

法人内のこども園との連携が全て出来なかったため、2歳児が他園に移行する時にとまどいや不安を感じていた。交流は出来なくても、移行する際に子どもの不安を軽くするために、職員同士の連携を今まで以上に強くしていきたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

神戸市立たちばな児童館

基本方針

家庭的な雰囲気の中で、遊びや子ども同士の関わりを通して、将来も幸せになるよう支援を行い、子育てコミュニティの拠点となるよう地域に開かれた児童館を目指す。

1. 《児童健全育成事業》

児童館での日常の自由遊びや行事を通して、児童の健全育成を図った。

木製の大型遊具をリースで設置し、木のぬくもりを感じながらゆったりとごっこ遊びを楽しんだり、体を動かしたりできるようにした。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本の見直し、個別で遊べる玩具を増やした。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、少数で行う、又は開催中止せざるを得ないものがあった。

〈年間行事〉

4月	新入生歓迎会 (中止) こいのぼり作り
5月	楠北まつり参加 (中止)
6月	つくって遊ぼう (中止)
7月	夏祭り (中止) サマープログラム (工作・ゲーム)
8月	サマープログラム (工作・ゲーム) 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流 (中止) 子ども神輿参加 (中止)
9月	高齢者へのプレゼント (中止)
10月	ハロウィン写真撮影
11月	シェイクアウト訓練 音楽遊び (中止)
12月	年末お楽しみ会 (中止) なかよしひろばクリスマス会
1月	カルタ大会 けん玉グランプリ
2月	豆まき (中止)
3月	つくって遊ぼう (中止)

〈月間行事〉

けん玉検定・おりがみ教室・みんなで遊ぼう

〈利用人数〉

	幼児 (人)	低学年 (人)	高学年 (人)	中高生 (人)	大人 (人)	合計 (人)
4月	0	242	77	0	0	319
5月	0	156	35	0	0	191
6月	88	366	124	0	85	663
7月	109	351	169	0	102	731
8月	121	349	186	0	99	755
9月	183	319	180	0	182	864
10月	222	372	192	0	166	952
11月	250	305	139	0	216	910

12月	245	358	153	0	228	984
1月	195	307	124	0	179	805
2月	227	395	136	0	231	989
3月	223	427	161	0	214	1025
合計	1863	3947	1676	0	1702	9188

2. 《在宅育児家庭支援》

親子館事業

- 在宅育児家庭における育児に伴う孤立化や育児不安などへ対応するため、地域に住む幼児と保護者を対象に親子が気軽に集える場として事業を行った。
 - ・職員が仲立ちになり、保護者同士が交流できるよう配慮した。
 - ・季節が感じられるようなプログラム、親子のふれあいを楽しめるプログラムを取り入れた。
 - ・登録児童とその保護者が活動に集中できるように、職員で0、1歳児の兄弟をできるだけ預かるようにした。
 - ・緊急事態宣言中は閉館していた為、親子館事業、一般来館共に中止した。

- 「すこやかクラブ」 2～4歳児とその保護者の仲間づくり（登録制）

目的：グループで楽しく遊び、保護者同士の交流を図った。

対象：2～4歳児とその保護者

実施日時：毎週木曜日 10:00～10:50

11:00～11:50

登録が14組だった為、神戸市の指導により2クラスで実施した。

緊急事態宣言による閉館の為、5月14日～6月11日までのすこやかクラブを中止した。

登録組数（子どもの人数）：14組（14名） 内 組が0、1歳児の兄弟同伴

実施内容・参加人数

〈実施内容〉

	月	日	内 容	参加人数（組数）
1 学 期	5	7	説明会	中止
		14	開講式	中止
		21	ふれあい遊び	中止
		28	散歩（大倉山公園）	中止
	6	4	制作（プレゼント作り）	中止
		11	ふれあい講座（保健指導）	中止
		18	開講式	29人（13組）
		25	制作（顔を描こう）	24人（11組）
	7	2	七夕制作	27人（12組）
		9	制作（染め紙）	20人（9組）
16		1学期誕生日会	31人（14組）	
2 学 期	8	20	風船あそび	31人（14組）
		27	サーキット	29人（12組）
	9	3	制作（秋の折り紙制作）	27人（12組）

		10	制作 (ロケットを作ろう)	29人 (13組)	
		17	プレゼント制作 (しおり)	30人 (13組)	
		24	お母さんプログラム① (紙コップつみき)	25人 (11組)	
	10		1	ヤクルトおなか元気教室	27人 (12組)
			8	ふれあい講座 (躰についてグループワーク)	37人 (16組)
			15	ミニ運動会	22人 (10組)
			22	おかあさんプログラム②	24人 (11組)
			29	ハロウィンごっこ	29人 (13組)
	11		5	シェイクアウト訓練 (大倉山公園)	34人 (15組)
			12	廃材あそび	35人 (15組)
			19	制作 (どんぐり)	31人 (13組)
			26	制作 (クリスマスブーツ)	30人 (14組)
	12		3	交通安全教室	31人 (14組)
			10	制作 (クリスマスブーツ)	29人 (13組)
			17	2学期誕生日会、クリスマス会	34人 (15組)
3 学 期	1	7	警報の為閉館	中止	
		14	カルタあそび	34人 (15組)	
		21	修了記念制作 (フォトフレーム)	31人 (14組)	
		28	節分ごっこ	34人 (15組)	
	2		4	修了記念制作 (カバン)	31人 (14組)
			18	おかあさんプログラム③	32人 (14組)
			25	制作 (おひなさま)	28人 (12組)
	3		4	3学期誕生日会	35人 (15組)
			11	修了式	35人 (15組)

○「キッズクラブ」すこやかクラブの保護者による幼児の相互関わりと交流

目的：すこやかクラブのグループで保護者が交代で子どもを世話し、預かり合いをする。

対象：すこやかクラブ員の希望者

- ・参加者を募ったが、希望者がおらず実施できなかった。

○「なかよしひろば」子育て親子の交流の場

対象：0歳児～就学前児とその保護者

0歳児タイム、1歳児タイムは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2部に分け申込制にして実施した。(1部、2部共に10組ずつで行った)

4月、5月は緊急事態宣言による休館の為、実施できなかった。

実施日：毎週火曜日・水曜日 (4月～3月)

- ・0歳児タイム…0歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週火曜日 10:00～10:30、11:00～11:30

- ・1歳児タイム…1歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週水曜日 10:00～10:30、11:00～11:30

- ・おべんとうひろば…自由に昼食をいただく 毎週月曜日～土曜日 11:30～12:30

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年間を通じて開催を中止した。

- ・誕生日会…2ヶ月に1度行った (奇数月)

〈なかよしひろば人数報告〉

	0歳児タイム参加人数 (組)	1歳児タイム参加人数 (組)	合計人数 (組)
4月	中止	中止	中止
5月	中止	中止	中止
6月	20人 (9組)	47人 (23組)	67人 (32組)
7月	8人 (4組)	34人 (17組)	42人 (21組)
8月	25人 (11組)	28人 (14組)	53人 (25組)
9月	73人 (34組)	104人 (49組)	177人 (83組)
10月	102人 (50組)	115人 (56組)	217人 (106組)
11月	95人 (47組)	107人 (52組)	202人 (99組)
12月	134人 (65組)	104人 (48組)	238人 (113組)
1月	78人 (39組)	103人 (49組)	181人 (88組)
2月	94人 (49組)	106人 (57組)	200人 (106組)
3月	119人 (58組)	93人 (44組)	212人 (102組)
合計	748人 (366組)	841人 (409組)	1589人 (775組)

3. 〈子育てコミュニティ育成事業 (児童館日曜開放) 〉

目的：地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する。

児童館は日曜開放に積極的に協力し、委員の方と共に実施する。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、年間を通して日曜開放を中止した。

〈日曜開放実施内容・人数報告〉

	内 容	参加人数 (人)
5月	プレゼント作り	中止
6月	プラバン作り	中止
7月	七夕飾り	中止
7月	夏祭り	中止
9月	スーパーボールすくい	中止
10月	スライム作り	中止
11月	ビー玉カーリング	中止
12月	年末お楽しみ会	中止
1月	けん玉グランプリ	中止
2月	ミニ運動会	中止
3月	バター作り	中止

4. 〈広報〉

ホームページを活用し、「じどうかんだより」の更新を行った。

ホームページをリニューアルし、コンセプトを明確に表すことで、興味を持ってもらえるようにした。

SNSを活用して、情報の更新頻度を上げ、興味を持ってもらうことに努めた。

毎月、「じどうかんだより」を地域の関係者・関係機関に届け、地域との関係強化を図った。

5. <安全指導・危機管理>

避難訓練（火災か地震か防犯）月1回～2回

*自由来館の児童も避難訓練に参加した。

6. <研修>

児童館研修に参加し、知識を得た。

持ち帰り、他職員に伝達をしたり、実際行ってみたりと有効に活用できた。

7. <地域貢献事業>

小学1年生～6年生を対象に学習支援教室「まなびやDAIJI」を1月より開始した。

地域や婦人大学、中央区社協からの紹介により集まったボランティアにより宿題や、授業の分からないところを一緒に考えていくようにした。

総合福祉センター、婦人会館を使用した。今後、中央区社会福祉協議会、神戸市と共に湊川神社の使用について交渉を進めていく。

実施日：毎週金曜日15：00～17：00

8. <総括>

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言で、4月、5月は閉館していた。再開後は密を避けるため、0歳児タイム、1歳児タイムを申込制にするなど例年とは違った形で実施した。再開を心待ちにして下さっていた方々が多く、定員以上の申し込みを頂くこともあったので、改めて地域の皆様が必要として頂いたことに感謝し、より魅力的な児童館にしていかなければならないと感じた。

また、なかよしひろばは、繰り返し来てくださる方が多く、母親同士のコミュニティも形成されていた。プログラムの無い日でも、児童館で待ち合わせをして遊びに来て下さる方々がおられ、良い利用の仕方をしていただいている。

学習支援教室を1月から開始した。地域の方や大学生、元教員のボランティアの方々と一緒に手探りながらも進めていくことができ、少しずつ形が出来てきたので、子どもの居場所として充実させていきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響で行事の中止が多かった。対策をしっかりと行い、感染者数の動向などに注意を払いながら、できることをしていく。

令和2年度 事業報告書（案）

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ① 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ② 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③ 湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《令和2年度目標》

- ① 高学年児童への対応を学び知識・技能を深める。
→研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
高学年児童とも積極的に関り、理解に努めた。
- ② 豊かな経験ができるよう努める。
→お楽しみ会などの企画、準備、進行などを自分たちで行う等のサポートをした。
- ③ 夏季休業日期間の希望者にお弁当委託サービスを行う。
→新たにライフデリに委託することができ、実施することができた。
- ④ リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
- ⑤ 児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナーと一体的に保育を行う。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、児童の交流を取りやめた。
- ⑥ 植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
→メダカの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦ 小学校との定期的な連絡会を実施する。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りは、随時行った。
- ⑧ 児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
→編み物が流行ったので、毛糸や道具を用意しところ、詳しい児童が周りに教える姿が見られた。
6年生が発案し準備、進行をしたクリスマス会を行った。

3. 《内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援 ・おはなし会 ・けん玉遊びの推奨 ・おりがみ教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加（中止）
6月	七夕飾り作り 交流会（中止）
7月	たちばなカフェ 交通安全指導 夏祭り（中止） サマープログラム（工作、ゲーム）
8月	サマープログラム（工作・ゲーム） 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） 子ども神輿参加（中止）
9月	運動遊び 高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会（中止）クリスマス会（お楽しみ会） たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉グランプリ 個人懇談
2月	新1年生入会説明会
3月	お別れ会 たちばなカフェ 忍者ごっこ（外部講師）

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・みんなであそぼう

6. 《初日在籍数》

	1年生 (人)	2年生 (人)	3年生 (人)	4年生 (人)	5年生 (人)	6年生 (人)	合計
4月	7	9	13	12	3	5	49
5月	7	9	13	12	3	5	47
6月	7	9	13	12	3	5	42
7月	7	8	13	12	2	5	39
8月	7	8	13	8	1	5	38
9月	7	8	9	9	1	5	37
10月	7	8	9	8	1	5	38
11月	7	8	9	7	1	5	37
12月	7	9	9	7	1	5	37
1月	7	9	9	7	1	4	37
2月	7	9	9	7	1	4	37
3月	7	9	9	7	1	4	37
合計	84	103	128	108	19	57	499

7. 《防災・防犯訓練》

火災・地震・防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。

総合福祉センターや地域の防災訓練にも参加した。

月日	訓練の種類	参加人数
4月3日	火災訓練	24
4月13日	防犯訓練	15
5月19日	地震訓練	13
6月17日	防犯訓練	29
7月3日	水害訓練	26
7月21日	防犯訓練	24
8月6日	火災訓練	28
8月25日	防犯訓練	24
9月1日	地震訓練	24
9月16日	火災訓練	25
10月14日	防犯訓練	25
10月15日	火災訓練	19
11月30日	火災訓練	19
12月3日	防犯訓練	25
1月15日	地震訓練	18
2月15日	防犯訓練	18
2月18日	火災訓練	23
3月16日	防犯訓練	20

8. 《会議》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。

リーダー会議を行い、児童館と情報交換や約束事の統一、問題点について話し合った。

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 1件

平成31年度 事故 1件

① 事故発生内容

骨折・・・1件

② まとめ

床に手をついた際、腕を伸ばした状態で手を突き、片腕に体重がかかり肘を骨折した。

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・2件

令和2年度			平成31年度				
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	0件	2件		1件	1件	0件

○まとめ

宿題を終わらせてから帰らせて欲しいという内容については、子どもの様子を伝え徐々に行えるようにしていくことを伝えた。

ホームページについての内容は、相談者の機能の見落としであったが、もう少し分かりやすくするように工夫する。

11. 《総括》

6年生が学童保育を利用することが増えた。年度の後半には、年下の児童の面倒を見たり、手探りながらもリーダー役を試みたりと、高学年としての意識を高く持つ姿が多く見られた。そのような中、6年生が発案し準備、進行をしたクリスマス会を行った。準備の過程で悩んでいた、荒れていた様子も見られたが、6年生4人がよく相談し合い、協力をして、当日は参加していた児童、職員が口々に楽しかったと言っており、6年生たちも自信につながった様子だった。この経験を、今後の高学年対応に生かし、繋げていきたい。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の為、児童にマスクの着用や手洗い、消毒等の対策を伝え実施した。子どもたちは新しい生活様式に慣れてきてはいるものの、ストレスが多くかかっていたので、子どもの意見をより多く取り入れながら、楽しいと感じられることを増やすように意識をした。次年度も引き続き新型コロナウイルスを意識した生活が続くので、子どもが自発的で楽しいと思える活動ができるように支援していきたい。

言葉が乱暴な児童や、室内で暴れている児童も多いので、躰も大切にしていきたい。児童が伸びやかに成長でき、時代のニーズにも対応できるよう職員全員が研鑽し、資質向上を図っていきたい。

令和2年度 事業報告書（案）

神戸市立湊学童保育コーナー

1. 《基本方針》

- ① 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ② 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③ 親館との連携を密に図る。

2. 《令和2年度目標》

- ① 小学校との連携を密に図り、定期的な連絡会を実施する。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りは随時行った。
- ② 児童、職員の交流を深め、親館と一体的に保育を行う。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、児童の交流を取りやめた
- ③ 高学年児童への対応を学び知識・技能を深める。
→研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
高学年児童とも積極的に関り、理解に努めた。
- ④ 豊かな経験ができるよう努める。
→学童内の行事の準備や進行を行い、友だちと協力して目的に取り組むようにするなど多様な経験をできるようにした。
- ⑤ 夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。
→新たにライフデリに委託することができ、実施することができた。
- ⑥ リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
- ⑦ 植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
→メダカの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑧ 児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
→ダンスチームの活動ができるように、子どもの意見を取り入れながら支援した。

3. 《内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援 ・おはなし会 ・けん玉遊びの推奨 ・おりがみ教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加（中止）

6月	七夕飾り作り 交流会 (中止)
7月	みなとカフェ 交通安全指導 夏祭り (中止) サマープログラム (工作、ゲーム)
8月	サマープログラム (工作・ゲーム) ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流 (中止) 子ども神輿参加 (中止)
9月	運動遊び
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会 (中止) お楽しみ会 みなとカフェ
1月	かるた大会 けん玉グランプリ 個人懇談
2月	新1年生入会説明会
3月	お別れ会 みなとカフェ

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・みんなであそぼう

6. 《初日在籍数》

	1年生 (人)	2年生 (人)	3年生 (人)	4年生 (人)	5年生 (人)	6年生 (人)	合計
4月	48	37	22	19	4	2	132
5月	48	37	22	19	4	2	132
6月	48	37	22	17	4	2	130
7月	49	38	22	17	4	2	132
8月	48	36	22	15	4	2	127
9月	46	37	22	13	4	2	124
10月	46	35	21	13	4	2	121
11月	44	34	21	13	4	2	118
12月	44	35	21	12	3	2	117
1月	43	35	21	12	3	2	116
2月	43	34	21	12	3	1	114
3月	44	32	19	12	3	0	110
合計	551	427	257	174	44	21	1474

7. 《防災・防犯訓練》

火災・地震・防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。

月日	訓練の種類	参加人数
4月10日	防犯訓練	43
4月27日	火災訓練	19

5月12日	防犯訓練	14
5月25日	火災訓練	28
6月24日	水害訓練	71
6月26日	防犯訓練	75
7月1日	地震訓練	77
9月18日	水害訓練	68
9月28日	防犯訓練	76
10月8日	火災訓練	63
11月10日	地震訓練	73
12月15日	火災訓練	68
1月14日	地震訓練	64
2月18日	防犯訓練	61
3月11日	地震訓練	63

8. 《会議》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。

リーダー会議を行い、児童館と情報交換や約束事の統一、問題点について話し合った

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和2年度 事故 2件 平成31年度 事故 3件

① 事故発生内容

打撲・・・2件

② まとめ

階段を踏み外し、足の指を打撲した。慌てて降りたことで起こったので、階段の上り下りは落ち着いて歩くことを指導する。

バランスを崩して転んだ際、机の角で口を打ち歯茎より出血した。

机にコーナーガードを付けていたが、ぶつけた時に外れていたため、日頃の点検強化、修繕を迅速に行うことを指示した。

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・ 8件

令和2年度				平成31年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	8件	3件	5件		4件	0件	4件

○まとめ

子ども同士のトラブルからの相談、保護者への連絡や対応についての相談があった。子ども同士のトラブルについては職員の目が行き届いていなかった部分があるので、変わった様子がないか見落とさないように職員に指導していく。

保護者自身の目が届かないところでのトラブルは保護者も不安に感じることも多く、思い込みや、一方的な思いを口にすることがあるので、日頃の様子をできるだけ発信して安心できるようにしていく。

職員の伝え方についても注意が必要な場面があったので、改めて保護者対応について職員で学んでいく。

1 1. <総括>

登録人数がほぼ上限までいた為、昨年度の1.5倍の人数になった。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4、5月を自宅で過ごす子どもが多かった。その為、集団での生活に不安を抱えている期間の長い子どもや、自分以外の人に対する意識が持てない子どもが増えるなど、夏過ぎまで集団としての活動に苦慮する場面が多かった。しかし次第に慣れていき、集団生活のルールを意識する場面も見られて来たので、今後につなげていく。

「さくらしすてむ」を導入し、出欠確認が効率的になっているが、職員が扱いきれしていない機能や不具合が多く戸惑う場面があった。

小学校との連携は、気になる児童について随時情報交換をすることが出来たので良い関係を築けている。今後も密に連絡が取れるよう、協力し合える関係を継続して構築していく。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休校期間中は、マスク着用が徹底できず、家庭から持参しない子どもや、意図的に外してしまう子どもが多かった。なぜ必要なかを子どもたちにしっかりと伝えることが出来ていなかったことも原因にあると思われる。必要なことは徹底させ、危機管理をしっかりと行えるように職員の意識を変えていく。

令和2年度 事業報告書 (案)

ハーバー大慈

1. <施設理念>

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す

2. <基本方針>

①利用者の利益を最善の目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する

②母と子の権利擁護のために、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する

3. <目標>

①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする

入所後に出た課題だけではなく、どういった支援が必要か事前に話し合う等、入所前にも重点を置く様にした。結果、入所時より密に関わる事で信頼関係の構築に繋がり、支援が円滑に進んだ。また、関係機関との連携も必要に応じて行い、支援内容の向上に努めた。

②職員の資質の向上

職員による支援(対応)の差をなくす為に、会議等を通し職員間の意思疎通に努めた。また、会議の内容は、担当だけではなく、職員全員がチームとして入所者に関われる様、心掛けた。

③地域のニーズに沿ったサービス、子育て支援を行う

新型コロナウイルス感染症対策により、リフレッシュ保育の受け入れを止めた。その為、リフレッシュ保育事業を通しての子育て支援は行えなかった。来年度も環境の改善は見込めない為、現状で出来る事が無いのか模索し、取り組んでいきたい。

<リフレッシュ保育事業>

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策で受け入れをせず。

※月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R1	34	34	27	5	7	15	14	18	24	19	25	1	223

4. <健康診断>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便(O-157)	月1回	—	—

5. <広報>

- ・毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。
- ・求人パンフレットを作成し、各大学等に配布した。

6. 《入居者の異動利用状況》

月別 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍数		20	18	18	17	17	17	17	17	17	18	18	18	212
		46	42	42	40	40	40	40	40	40	42	42	42	496
入所	夫の酒乱 暴行													
	住宅 喪失													
	その他										1			1
											2			
退所	公営住宅 入居													
	民間住宅 入居												1	1
													2	2
	復縁 再婚	1		1										2
		2		2										4
	その他	1												
2													1	3
短期保護	母子											1	1	2
											3	3	6	
	婦人				1				1	2				4

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、1世帯3名 婦人は3名だった。

7. 《保健衛生》

<ul style="list-style-type: none"> ・害虫駆除…新型コロナウイルス感染症対策により、行わず。害虫対策備品のみ配布する。 ・清掃…業者に依頼し、各居室のエアコンと排水管、共用部の廊下清掃を行った。 ・新型コロナウイルス感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ① 入所者と職員の体調管理、マスクの配布（検温） ② 外部の方（親族等）の出入りの制限、検温 ③ 集団にならない様、預かり保育、リフレッシュ保育事業の制限 ④ 定時の換気、施設内の消毒

8. 《避難訓練》

- ①消防訓練→毎月1回行う。また、水消火器を用意し消火器使用の訓練も取り入れた。
(4～5月、新型コロナウイルス感染症対策の為、実施せず)
- ②不審者訓練→10月、施設への不審者侵入を想定し、訓練を行った。
- ③地震訓練→11月、地震後の津波を想定し、大倉山公園まで避難の練習をした。

9. <<会議>>

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	ワンアッパ会議
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設・子ども福祉係・生活保護係・保健師の各担当者）		

- ・職員会議、支援会議、リスクマネジメント会議、ワンアッパ会議
4～5月、新型コロナウイルス感染症対策により開催せず。
- ・リフレ委員会
新型コロナウイルス感染症対策により、受け入れを止めていた為、6～7月のみ開催する。
- ・三者連絡会議
年2回、予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策により、1回のみ開催となる。

10. <<行事内容>>

- 年間行事（母の会）→4～6月、1～2月、新型コロナウイルス感染症対策により、開催せず。
- 中止→新型コロナウイルス感染症対策の為、開催を中止したもの。

月	日	行事	月	日	行事
4		個別遊び・昼食会→中止	10	24	個別遊び（アクセサリー作り） OB会・親子エンジョイ・昼食会→中止
5		母子協 母と子の運動会（湊小学校）・ 個別遊び・昼食会→中止	11	9 14 20	昼食会 個別遊び（ひらかたパーク） →小学6年生～高校生 施設内忘年会（弁当配布） 個別遊び（年長～小学3年生）→中止
6	27	個別遊び（石鹸作り） 卓球大会・害虫駆除・昼食会→中止	12	18 19 25	施設内クリスマス会 （弁当配布、クイズ、プレゼント用意） 個別遊び（クッキー作り） 昼食会
7	7 28 30	七夕（ゼリーとカードのみ配布） 昼食会 個別遊び（宿題、ランプシェード作り） 母子協 児童キャンプ（香住）→中止	1	6 15 21 30	昼食会 新年会（弁当配布、ゲーム用意） 母子協 新春母と子の集い （くじ引き大会、芸術コンテスト開催） 個別遊び（おかし作り）
8	4 6 18 24	昼食会 個別遊び（コインケース作り） 昼食会 地藏盆（飾り、御詠歌、弁当配布） 海釣り公園招待・料理教室→中止	2	20 27	個別遊び（お菓子作り） 個別遊び（お菓子作り） 節分→（具材配布） 母子協 児童スキーキャンプ（ハチ高原）・ 昼食会→中止
9	14 28	焼肉パーティー（弁当配布） 個別遊び（マスク作り） 母子協 バス旅行（おもちゃ王国）・昼 食会→中止	3	3 13	ひな祭り（ひなあられ、カードのみ配布） 個別遊び（グリセリンソープ作り） 昼食会→中止

1.1. <<学習指導>>

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した）
	夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題 終了している場合は他の科目の宿題
中学生	週1回	学校、塾のワークを一緒に行った
	テスト前は2日間連続	テスト範囲
	夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題 終了している場合は、他の科目の宿題
	週1～2回（2時間）	教科全般 希望者のみ、大学等の学生に家庭教師として来てもらい、1対1で学習指導をしてもらった

※4月1日～6月12日まで、新型コロナウイルス感染症対策の為、各学習指導を実施せず

1.2. <<施設整備等>>

※設備の老朽化、退所後のリフォームにより施設環境整備を行う

項目	居室修繕工事・水道管取替工事
----	----------------

1.3. <<リスクマネジメント報告>>

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

令和2年度				平成31年度			
報告件数	合計	事故	ケガ	報告件数	合計	事故	ケガ
入所者	4件	0件	4件	入所者	0件	0件	0件
リフレ	0件	0件	0件	リフレ	6件	0件	6件

事故・ケガ報告(内容)



○まとめ

事故→病院を受診する様な怪我は防ぐ事が出来た。
ケガ報告→リフレッシュ保育事業の受け入れを行わなかった為、リフレの怪我はなかった。
入所児童の怪我は、保育中の怪我と、下校中の怪我の処置を行った。施設内保育では、未就学児の受け入れも行っているが、リスク管理をしながら保育していた為、大きな怪我はなかった。

1 4. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和2年度				平成31年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		1件	1件	0件

○まとめ

法人内こども園の利用者で、利用内容の相談だった。苦情は0件だったが、今後も初期対応については特に丁寧な対応を心掛けていきたい。

1 5. 《地域貢献》

- ①法人内認定こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
- ②リフレッシュ保育事業の保育時間延長（21時以降）
- ③アフターケアによる居室訪問、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等

・法人内こども園、リフレッシュ保育の延長保育受け入れは利用がなかった。
・アフターケアは病院の付き添い、居室訪問、関係機関との連携、金銭管理、昼食提供、相談業務を行なった。

1 6. 《総括》

新型コロナウイルス感染症対策により、隔離出来る様、空き室を確保した事もあるが、5月以降、入所者世帯が18世帯以上になる事はなかった。また、市内の他施設でも同様に入所希望者が減っている為、必要としている方に認知してもらえる様、広報活動については今後も行っていきたい。また、施設内の現状としては、例年より親子間のトラブルが増えた。要因としては、新型コロナウイルス感染症対策により、外出を控え、親子が居室で過ごす時間が増えた事や行事などの開催中止が考えられる。行事の開催方法など、可能な範囲内の工夫は凝らしたが、来年度も職員間で話し合い、支援に繋げていきたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

大慈学童クラブ

1. <基本方針>

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する
- ②共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する

2. <大慈学童クラブにおける中長期ヴィジョン>

地域福祉の一環として、地域のニーズに応え、利用者が安心して利用出来るサービスを提供する。また各利用者が集団生活を通し、思いやりの心と考える力を育める様、努める

3. <目標>

- ①利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する。

令和2年度より、ニーズに応え在籍している児童（3年生）を対象に、4年生の受け入れも行った。実際に保護者より、“3年生で終わりだと思っていた。4年生になってからの過ごし方について悩んでいたのので助かります。”という声を頂いた。

- ②リスクマネジメントに基づき、リスクの軽減を図る。

職員の配置、新人職員への教育等、リスクの軽減に努めた。また、リスクマネジメント会議を通し、大きな事故に繋がらない様、対策を職員間で話し合った。

- ③職員の資質の向上。

学童委員会等を通し、職員間での意識の共有に努めた。また、保育内容、保護者対応についても情報を共有した。

4. <利用人数>

初日在籍数 (人)

学年 月	1年	2年	3年	4年	合計	学年 月	1年	2年	3年	4年	合計
4	10	7	8	5	30	10	10	7	8	5	30
5	10	7	8	5	30	11	10	7	8	5	30
6	10	7	8	5	30	12	10	7	8	5	30
7	10	7	8	5	30	1	10	7	8	5	30
8	10	7	8	5	30	2	10	7	8	5	30
9	10	7	8	5	30	3	10	6	9	5	30

5. <広報>

- ・保護者、各区役所、神戸市役所こども家庭局に学童新聞を発行した。新聞の内容には、行事予定や、お知らせ等を記載した。
- ・求人パンフレットを作成し、各大学等に配布した。

6. 《行事内容》

○中止→新型コロナウイルス感染症対策により、中止したもの

月	日	行 事	月	日	行 事
4		花見・昼食会・のびっ慈 day→中止	10	23	のびっ慈 day (ヨーヨー作り) 昼食会→中止
5		昼食会・のびっ慈 day→中止			
6	19	のびっ慈 day (パラシュート作り) グループワーク・昼食会→中止			
7	13~	個別懇談会 (希望者対象) 工作 (スライム作り) 昼食会 工作 (六角返し) のびっ慈 day (水遊び)	11	2	グループワーク (大倉山公園) 昼食会 のびっ慈 day (ペーパーオーナメント作り) 個別懇談会 (希望者対象)
	18				
	27				
	28				
	30				
	31		12/5		
8	3	映画観賞会 昼食会 スイカ割り のびっ慈 day (水遊び) 屋台村 昼食会 地藏盆→中止	12	24	のびっ慈 day (プラバン作り) クリスマス会 昼食会→中止
	4				
	5				
	7				
	17				
	18				
9	11	のびっ慈 day (マグヌスコップ作り) 昼食会→中止	1	6	昼食会 のびっ慈 day (公園で遊ぶ) もちつき→中止 節分 (豆まき) のびっ慈 day (けん玉作り) 昼食会→中止 ひな祭り (雛壇を飾る) のびっ慈 day (公園で遊ぶ) お別れ会 昼食会→中止
			2	3	
			3	12	
			3	18	
			3	24	

7. 《保健衛生》

- ・エアコンのクリーニング、廊下清掃を業者に依頼し、実施した。
- ・毎週金曜日 (祝日、年末年始除く)、大掃除を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により、害虫駆除は行わず。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、下記の対応をする。
 - ①児童の健康状態の管理 (検温、健康観察表の確認)
 - ②定時の換気、消毒
 - ③手洗いや消毒等の徹底
 - ④送迎時の入館の制限、外部業者が出入りする際の検温
 - ⑤職員の体調管理 (検温)
 - ⑥食事中、パーティションの設置

8. 《消防避難訓練》

- ・7～9月、11～12月、1月、2月実施
 (4～5月は新型コロナウイルス感染症対策により、中止。10月、3月は夜間想定 of 訓練、6月は外遊び中の為、実施せず)
- ・不審者訓練・夜間想定 of 為、実施せず
- ・災害訓練 (津波想定) …11月実施

9. 《会議》

学童委員会 (月1回)

→4～5月は新型コロナウイルス感染症対策により、開催せず。

10. 《地域貢献》

- ・延長保育の時間外受け入れ (18時～19時)
 →定額での延長保育希望者を除き、当日に33件、保護者より要望があり、行った。

11. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

報告件数	令和2年度			報告件数	平成31年度		
	合計	事故	ケガ		合計	事故	ケガ
	55件	3件	52件		54件	0件	54件

事故・ケガ報告(内容)



○まとめ

事故→内訳は、外遊び中の虫刺され、室内遊び中の後頭部出血 (机で打つ)、指の骨折。他児との遊び中の怪我は指の骨折があった。熱中症対策を徹底した為、熱中症に関しては防ぐ事が出来た。

ケガ報告→前年度と比べて、受け入れる学年が増えた事による怪我の増減はなかった。転んだり等の不慮の怪我は多かったが、感染症対策としても、子ども同士の接触を減らし、安全に過ごせる様、保育した。

1 2. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→運営委員長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

令和2年度				平成31年度			
報告 件数	合計件数	苦情	相談	報告 件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		1件	1件	0件

○まとめ

苦情、相談共に内容は保育中に起きた子ども同士のトラブルで、苦情に関しては職員が把握出来ていなかった。謝罪の後、今後の対策等を伝え、職員間でも会議を通し共有した。また、同じ事が起きない様、保育中の意識向上についても話し合った。

1 3. 《総括》

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、行事の中止、休校中の朝からの受け入れなど、感染症対策も含め、様々な環境の変化の中で保育を行った。その都度、職員間で話し合い、業務の改善など、対応する事が出来た為、来年度も引き続き、利用者に安心して利用してもらえ様、感染症対策、保育の質の向上には努めていきたい。

令和2年度 事業報告書 (案)

事業所内保育事業 大慈さくら保育園

1. 《ヴィジョン》

世代を超えた関わりのもと、安心して自分を出せる子どもを育てる

2. 《基本方針》

- ① 高齢者との多様な関わりを通して、思いやりの心を育む
- ② 自然との関わりを通して、多様な経験をする
- ③ 子どもが安心して生活できるように、保護者との連携を図る

3. 《令和2年度報告》

- ① 運営開始にあたり必要な環境（人員・物品・システム）を整える
→職員の配置人数を下回ることに無き人員の確保が行えた。
補助金を活用し、登園システムの導入を行った。
- ② 事業所枠の園児数推移に因っては、地域枠の拡大を申請し、在園児数を増やす
→職員の配置人数に問題がなければ、地域枠と事業所枠は弾力運用して良いとの回答であった為、1・2歳児の地域枠4名を超えて受入れを行った。
- ③ 老人施設事業所内保育の特性を活かし、高齢者との交流を定期的に行う
→コロナ禍で交流は控えた

4. 《月行事計画》

月行事	頻度
お誕生日会	毎月1回
発育測定	毎月1回
特養高齢者との交流会	毎月2～4回

5. 《年間行事》

月	行事	月	行事
4月	入園式	11月	
5月		12月	クリスマス会
6月	2歳児 園外保育→中止	1月	正月あそび
7月	七夕まつり	2月	豆まき
8月	花火大会(特養と合同)→中止	3月	お別れ会

6. 《防火防災計画》

- ①運営に関する基準に準じ毎月の防災訓練を実施する

月行事	頻度
-----	----

防災訓練（避難及び消火訓練）	毎月1回
防犯訓練	毎月1回
安全チェック	毎月1回
事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）	随時

②訓練や設備点検等、大慈智音園の防火防災計画と連動を図る

<例：大慈智音園防火防災計画>

月	内容
4月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認
5月	高圧電気点検 不審者対策
6月	災害連絡網確認 通報訓練
7月	消火訓練 災害食作成訓練
8月	図上避難訓練 消防設備点検
9月	不審者対策 災害連絡網確認
10月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認
11月	総合避難訓練（夜間） 通報訓練
12月	消火訓練
1月	図上避難訓練
2月	消防設備点検
3月	総合避難訓練（日中） 不審者対策 暗証番号変更

7. <<保健衛生計画>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	年1回
園児身体測定	月1回
園児検尿	年1回
保育従事者の検便	月1回

8. <<令和2年度在籍児一覧表>>

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	0	0	0	0	0%
5月	0	0	1	1	5%
6月	0	0	1	1	5%

7月	0	0	1	1	5%
8月	0	1	1	2	10%
9月	0	1	1	2	10%
10月	0	2	1	3	15%
11月	0	3	3	6	30%
12月	0	3	3	6	30%
1月	0	3	2	5	25%
2月	0	4	2	6	30%
3月	0	4	2	6	30%
合計	0	21	18	39	17%

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する

令和2年度 事故 0件

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする

令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	0件	0件	0

11. 《総括》

認可後1年を経て、令和2年4月に無事に開園することが出来ました。

事業所内保育である事から地域での認知度が低く、チラシや地下鉄沿線駅への掲示、施設建物への横断幕等、周知に努めましたが充足率は伸び悩みました。

その一方、少人数で保育する事が出来、乳児期における「丁寧に保育する」事の大切さを実感できました。コロナ禍で対外的な交流は控えざるを得ませんでした。小規模ならではの家庭的な雰囲気での季節行事を経験できる保育を行えました。コロナ感染症の流行は終息が見えませんが、感染症対策を徹底したうえで、本体特養の利用者や、連携園との交流方法を模索したいと思っています。